

がん診療連携拠点病院等 院内がん登録

2008年10年生存率集計 報告書

国立がん研究センター がん対策情報センター
がん登録センター 院内がん登録分析室

令和3(2021)年4月
国立がん研究センター がん対策情報センター

がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2008 年 10 年生存率集計の公表について

国立がん研究センターでは、がん対策情報センター・がん登録センターを中心に、これまで全国がん登録及び院内がん登録の標準化や体制整備に努めて参りました。院内がん登録は、2007 年診断症例から全国のがん診療連携拠点病院のデータを収集し、院内がん登録全国集計として我が国のがん診療の実態を把握する資料となるよう、毎年、全国集計報告書を公表しています。院内がん登録情報をもととした生存率集計としては 5 年生存率、科学的根拠に基づく情報をより迅速に提供するために 5 年より早い段階での生存率として、3 年生存率を公表して参りました。

本報告書では、長期予後の 2 冊目の報告書として、全国 329 施設から 2008 年診断症例の 10 年予後情報付院内がん情報を提供していただき、生存状況把握割合が 90%以上であった 240 施設のデータを用いて集計しました。2008 年診断症例を登録する時期より、がん登録実務者に対し 5 大がん以外のがんについて、UICC TNM 分類の病期登録について研修を行って参りました。その状況に鑑み、本集計では食道がん、膵臓がん、子宮頸がん、子宮内膜がん、前立腺がん、膀胱がんについて、新たに集計を行いました。

2008 年診断症例は、2007 年診断症例と同様に、院内がん登録が開始されてから間もない時期であり、データの精度や生存確認調査には一定の課題があり、全国のがん診療連携拠点病院等を代表する数値と捉えることはできません。しかしながら、本集計報告書をご活用いただけますと幸いです。

令和 3 年 4 月

国立研究開発法人国立がん研究センター 理事長

中釜 斉

生存率について

がん医療を評価する重要な一つの指標として、生存率がある。伝統的に、診断後あるいは治療後 5 年経過した時の生存率が治癒の目安とされており、がん(部位)によっては 10 年生存率が治癒の目安とされることもある。この報告書では、がん診療連携拠点病院 2008 年全国集計の結果を踏まえて、2008 年に診断された例の 10 年生存率を集計した。

信頼性の高い生存率を算定するためには、患者の生存確認を行うことが重要であるため、自施設への来院情報だけにたよらずに、患者の生存状況を把握する生存確認調査(いわゆる予後調査)が必須となる。この生存状況の把握が不十分な場合には真の値よりも高い生存率となることが知られている。また、生存率は生存状況把握割合以外にも生存率を算出した対象集団の基礎疾患の頻度や年齢分布などの偏りなどによっても大きな影響が出る。このように生存率の結果の解釈には様々な要因が影響することに留意する必要がある。

1) 生存状況把握割合の意味

生存率の算出において、先行研究における試算では、生存状況把握割合によって院内のデータのみを使って計算した場合、5 年相対生存率が真の値よりも 10~15% 高く推定されてしまうことがあるとの報告がある。そのため、我が国で先行して施設別生存率の公表をしてきた全国がんセンター協議会の集計方法¹⁾を踏まえて、生存状況把握割合が 90%以上であることを基準として、この基準を全がんにおいて達成した施設のデータのみを集計の対象とした。この生存状況把握割合は国際的には 95%以上が望ましいとされており、わが国の院内がん登録でもより高い把握割合をめざすべきであると考えられる。

2) 生存率の種類

生存率には、その算出の仕方によって大きく「実測生存率」、「疾病特異的生存率」、「相対生存率」、「ネット・サバイバル(Net Survival)」に分けられる。

「実測生存率」は、死因に関係なく、全ての死亡を計算に含めた生存率で、診断例に対する～年後の生存患者の割合で示される。計算方法は複数存在するが、Kaplan-Meier 法が頻用され、医療機関の公表する生存率は Kaplan-Meier 法による実測生存率であることが多い。本報告においても、実測生存率については Kaplan-Meier 法を用いて計算している。

一方で、がんによる生存への影響を把握したいときには、「疾病特異的生存率」、「相対生存率」、「ネット・サ

バイバル(Net Survival)」が用いられる。「疾病特異的生存率」は、実測生存率で計算される対象にはがん以外の死因による死亡も死亡の中に含まれるため、がん以外の死因による死亡を、「打ち切り」として計算している。この疾病特異的生存率を正確に推定するためには、がんが死因でないかどうかを判定できなければならない、そのために原死因を用いて判定するか、それ以外の死因も含めて判定するかで結果が変わってくる。現在の日本の現状において、この死因の把握はかなり困難である。

これに対し、「相対生存率」、「ネット・サバイバル(Net Survival)」は、実測生存率を対象と同じ性・年齢・診断年(歴年)の一般の日本人集団で「がんではなかった場合の生存率」という考えによる期待生存率を算出し、それで、実際の生存率を割って算出する方法である。疾患特異的生存率のように個々の死因を把握する必要がないため、国際的によく用いられている。

この期待生存率の算出方法の違いから、Ederer I 法、Ederer II 法、Hakulinen 法などがこれまでに開発されてきており、それぞれ特徴があるが、相対生存率に変わる方法として、「ネット・サバイバル(Net Survival)」が目ざされている。本集計においては、従来からわが国で推奨されてきた Ederer II 法を用いた。

3) 既存の生存率集計

現在までに、原則として全国を対象とし、かつ臓器別ではなく、全がんを対象として公表されてきたがんの 5 年生存率には、地域がん登録によるもの、全国がんセンター協議会によるものがあり、これらは全て相対生存率で算出されている。

本集計は、人口ベースのデータに近い、臓器別の全国データや、都道府県別データであるため、実測生存率とともに、相対生存率を算出した。

4) 生存率をどう解釈するか

本集計による生存率は、既存の地域がん登録や全国がんセンター協議会の集計結果に比べても、より広汎な集計データといえるが、それでも拠点病院と一部の都道府県推薦病院に限ってのデータであることに留意する必要がある。なお、本報告書では、生存率に影響を与えることが想定される情報で、かつ院内がん登録としてデータ収集されている情報として、①性、②年齢、③病期(がんの進行状況)、④観血的治療の有無(手術されたか、されなかったか)などを参考資料として併記して示している。

1) 全がん協調査などでは、消息判明率と呼ばれてきたが、本報告書ではこの呼び方で表記する。

参考資料

- がん登録実務者のためのマニュアル 生存率解析 味木和喜子
2001 年 9 月、大阪府立成人病センター調査部
- がん専門施設における生存率計測の標準化 木下洋子他、
癌の臨床 第 46 巻第 10 号、2000 年 9 月、篠原出版新社

目 次

がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2008 年 10 年生存率集計の公表について.....	2
生存率について.....	3
I 2008 年 10 年生存率集計 調査方法.....	7
1. 収集の対象と方法.....	7
(1) 収集の対象.....	7
(2) 収集方法.....	7
(3) 収集項目と定義.....	7
2. 集計の対象と集計方法.....	8
(1) 集計の対象.....	8
(2) 集計の手順.....	8
(2) 集計項目の定義.....	9
(3) 集計方法.....	10
(4) 公表の対象.....	10
II 2008 年 10 年生存率集計 結果概要.....	13
1. 調査参加施設と登録数.....	13
2. 集計対象.....	13
3. 相対生存率集計対象者.....	13
III 2008 年 10 年生存率集計 結果詳細(全体) : 悪性新生物<腫瘍>.....	24
1. 全がん.....	24
2. 胃癌.....	27
3. 大腸癌.....	29
4. 肝細胞癌と肝内胆管癌.....	35
5. 小細胞肺癌と非小細胞肺癌.....	39
6. 女性乳癌.....	43
7. 食道癌.....	45
8. 膵臓癌.....	47
9. 子宮頸癌.....	49
10. 子宮内膜癌.....	51
11. 前立腺癌.....	53
12. 膀胱癌.....	55
付表(2008 年 10 年生存率集計).....	57
1. 集計対象施設一覧.....	

I 2008 年 10 年生存率集計 調査方法

1. 収集の対象と方法

(1) 収集の対象

本集計では、2020 年 7 月 10 日時点のがん診療連携拠点病院等 447 施設、小児がん拠点病院 6 施設と 2015 年診断例、2013 年診断例について院内がん登録全国集計(0 年集計)にデータ提出した都道府県推薦病院 311 施設に調査を依頼した。データ収集に当たっては、院内がん登録 2008 年診断例の通年データを持ち、死亡日、最終生存確認日、生存期間等の生存状況情報を含めたデータ提出が可能と考えられる上記の調査依頼施設に、「予後情報付集計」の名称で、2008 年 10 年予後情報付登録情報の提供を依頼した。調査対象例は、2008 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間に、自施設で診断または他施設で既に診断されて自施設に初診した、全悪性新生物(がん)及び頭蓋内の良性及び良悪性不詳の腫瘍の登録患者*である。これら対象例の 10 年予後情報付の登録情報(以下「予後情報付腫瘍データ」という。)の提供を各施設に依頼した。なお、各施設における登録対象患者は、下記の通りである。

* 各施設における登録患者について

各施設における登録対象は、登録を実施する自施設での新規の診断患者または他施設で診断された初診患者であり、初発例、再発例を含む。また、治療を行わない経過観察例も含まれる。セカンドオピニオンのみを目的とした初診に関しては登録対象としないかどうかは各施設の判断に任されている。1 腫瘍 1 登録の原則に基づき、同一患者に別のがん種と判断されるがんが同時または時間をあけて(異時性に)生じた場合には、多重がんとして登録される。なお、多重がんの判断は各施設に任されている。登録済みの同じがんについて当該施設で治療中に再発した患者については登録対象ではないが、同じ患者が同じがんで複数の病院を受診した場合は、異なる施設において同じ患者の同じがんが登録されている可能性がある。(本全国集計では提供されたデータは匿名化後のデータであるため、重複の整理は行わない。)

(2) 収集方法

2020 年 7 月 10 日に、対象施設に、「院内がん登録予後情報付集計 手順書」を送付し、手順書に従って作成されたデータの提供を依頼した。データは、エラーチェックのための品質管理ツールを用いインターネット(ネットワーク型)を通しての提出を依頼した。データ収集期間は、2020 年 8 月 11 日から 9 月 4 日までとした。

提出においては、「がん診療連携拠点病院院内がん登録標準登録様式登録項目とその定義 2006 年度版修正版」において定義された標準項目(以下「標準項目」と略す。)を満たす腫瘍データを収集した。項目の品質管理(定義通りの項目・区分で登録されているか、関連する項目間の登録内容に矛盾はないか等)については、ネットワーク型ではデータの收受の段階で品質管理を実施し、論理矛盾がない状態でのデータ提供への協力

を依頼した。なお、健総発第 0907001 号「がん診療連携拠点病院で実施する院内がん登録における必須項目の標準登録様式に係る改正等」において定義された必須項目のみでのデータ提供についてはデータ精度管理上の問題から集計対象としなかった。

(3) 収集項目と定義

収集項目は、前述の診断から 10 年後の生存状況の情報を含む標準項目である。また、予後情報付腫瘍データの提出にあたり、下記の計算式に従って、追跡期間(日数)を計算し入力するよう依頼した。

* 追跡期間(日数)の計算方法

追跡期間(日数)とは、起算日から生存最終確認日もしくは死亡日までの日数とする。起算日は、後述する集計用診断日決定のルールに従って決定する。追跡終了日とは、予後調査結果が死亡であり死亡日があれば死亡日、生存の場合は生存最終確認日とする。

$$\text{追跡期間 (日)} = \text{追跡終了日} - \text{起算日} + 1$$

本集計に関連する項目について以下に記述する。その他の標準項目の定義は、2008 年全国集計報告書を参照いただきたい。

i. 診断区分

診断区分は、わが国の地域がん登録との整合性を図るために用いられている分類で、「1:初発(治療開始前)」、「2:治療開始後」に分けられる。この項目は当該腫瘍について自施設に受診する前に他施設において既に治療が開始されていたか否かを区別するもので、この項目が「1:初発(治療開始前)」であったケースでは、自施設で行われた治療は初回治療とみなす。本来であれば、一連の治療方針の下で施設を問わずに初回治療とされるべきであるが、わが国の現状では、施設が異なると、一連の治療であるかないかが判明しないことが多く、そのため、他施設での治療の情報は、初回治療であっても「初回治療なし」とするルールを定めている。

ii. 症例区分

症例区分は生存率の算定等で対象となる患者範囲を決定する重要な区分である。院内がん登録の機能の一つには、各施設の対がん医療活動の評価のための基礎資料を提供することにある。他施設と比較し自施設のがん診療実態を把握するためには、がん対象例を正しく識別する必要がある。この項目では、初回診断(登録施設での診断の有無)と初回治療(登録施設における初回治療の有無)の組み合わせにより患者を分類するための区分を登録している。本集計では、原則として「症例区分 2:診断ならびに初回治療に関する決定・施行がなされた症例」及び「症例区分 3:他施設で診断確定され、自施設で初回治療方針に関する決定・施行が

行われた症例」を分析対象とする。また、施設によっては前述の診断区分のみを入力している施設もあり、本集計では診断区分の組み合わせから症例区分を算出する対応表を用いて集計を行った。

iii. 臨床病期

治療前ステージ

UICC (Union for International Cancer Control) の定める病期の分類方法に基づき、何らかの治療が行われる以前につけられたステージを指す。わが国の一般的な臨床現場で使用される癌取扱い規約に基づくステージとは若干異なる部分がある。胃、乳房、肝臓、大腸、肺についてのみ、標準項目とされているが、他のがんについては任意の登録となっている。肝臓については、取扱い規約のステージも標準項目として登録することになっている。

前医で治療がなされており治療前のステージが不明の場合などは「不明」に分類されるか、空白のままに登録される。わが国の診療情報に関わる施設間の情報交換に関する懸念からこのような方針をとっている。

術後病理学的ステージ

手術が行われた患者に対して、術後に検体が提出され病理学的に算出されたステージを登録する。手術が行われなかった場合には空欄で、術前に化学療法や放射線療法、免疫・内分泌療法などが行われた場合には、手術前の治療の影響が予想されるため、術後病理学的ステージは適応外として登録される。定義上は、原発巣に対する切除術が行われ、断片が陰性であるような治癒的な切除が行われた場合に本ステージが評価できるとされている。術後病理学的ステージは、腫瘍やリンパ節を顕微鏡的に観察して得られるステージであることから、治療前ステージと比較して、治療開始時点でのがんの状態をより正確に表しているといえる。

なお、2008年登録対象は UICC TNM 第6版準拠で登録されている。

iv. 治療の有無

院内がん登録において登録される治療は、登録対象となったがんに対する初回治療である。初回治療とは治療開始時点で計画された一連の治療のことであり、症状・治療の進行に従って後に追加された治療などは含まれない。当初経過観察が計画されていたが、病状が悪化したために治療が行われた場合なども「初回治療なし」となる。また、症状緩和的な目的で行われた手術や放射線治療は、部分的に腫瘍に対する治療であるといえることから登録対象に対する治療の一環に考えるが、腫瘍に影響のない、鎮痛剤や制吐剤などの治療は、「治療あり」としない。

現時点の院内がん登録では、「i 診断区分」で既に述べたとおり、登録施設で行われた治療のみを「初回治療あり」としている。

① 手術・体腔鏡的治療

手術とは一般に外科的治療を指し、体腔鏡とは麻酔下に行われる腹腔鏡、胸腔鏡などの手術を指す。これ

らには、消化管や気管支内視鏡による治療を含めない。

② 内視鏡治療

上記で除外された、消化管、気管支内視鏡などによる治療を指す。

③ 放射線治療

原発巣に対する放射線治療だけではなく転移巣に対する放射線治療も含まれる。小線源療法も放射線治療として登録される。

④ 化学療法、免疫療法・BRM、内分泌療法

症状緩和のための薬物療法（鎮痛剤、制吐剤）などは含まない。また、通常の静注・経口化学療法だけではなく、肝動脈化学塞栓療法（TACE）に含まれる化学療法や動注療法も化学療法に分類される。内分泌療法には前立腺癌における除睾術等も含まれる。

⑤ 外科的・体腔鏡的・内視鏡的治療の結果

当該のがんに対する外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度を登録する。ここでは、初回治療として行った総合的な結果を記載する。つまり、最初内視鏡的な治療を行ったが、その後外科的な追加切除が行われた場合は、外科的切除の根治度を登録する。

2. 集計の対象と集計方法

(1) 集計の対象

生存率集計における集計対象は、2008年に診断された例で次の i から iii を満たす例を集計対象とした。

i. 自施設診断・自施設治療と他施設診断・自施設治療例

「症例区分 2: 診断ならびに初回治療に関する決定・施行がなされた症例」及び「症例区分 3: 他施設で診断確定され、自施設で初回治療方針に関する決定・施行が行われた症例」を集計対象とした。

ii. 悪性新生物<腫瘍>（一部良性の脳腫瘍）

本集計では、原則として新生物<腫瘍>の性状コード3の「悪性、原発部位（悪性新生物<腫瘍>）」の例を集計対象とした。但し、脳・中枢神経系に発生した腫瘍性疾患については、良性、良性又は悪性の別不詳の例を含めて集計対象とした。

iii. 年齢

診断時の年齢が0から99歳までの例を集計対象とした。

(2) 集計の手順

① 集計対象例の選定

提出されたデータから上記の i から iii に該当する例を抽出した。

i. 自施設診断・自施設治療と他施設診断・自施設治療例

集計対象施設から提供されたデータを、表 1-1 集計用診断日の決定のルール、及び表 1-2 集計用症例区分の決定のルールに基づいて、「項目：集計用診断日」、「項目：集計用症例区分」を作成した。その後、集計用症例区分が 2, 3 であった例を集計対象とした。

ii 悪性新生物<腫瘍>(一部良性の脳腫瘍)

原則として、「項目:330 組織診断名コード」の新生物<腫瘍>の性状を表す第5桁コードが「3:悪性、原発部位」であった例を集計対象とした。但し、一部の脳・中枢神経系に発生した腫瘍性疾患、ICD-O-3 の局在コードが「C70.0, C70.9, C71.0, C71.1, C71.2, C71.3, C71.4, C71.5, C71.6, C71.7, C71.8, C71.9, C72.2, C72.3, C72.4, C72.5, C72.8, C72.9, C75.1, C75.2, C75.3」の場合は、「0:良性」又は「1:良性又は悪性の別不詳」であった場合も集計対象に含めた。

iii 年齢

年齢は、生年月と集計用診断年月を用いて、院内がん登録全国集計と同様に下記の定義で求めた。

診断年月の月>=生年月日の月

⇒診断年月の年-生年

診断年月の月<生年月日の月

⇒診断年月の年-生年-1

上記で求めた年齢が0~99歳までの例を集計対象とした。

上記で選定した例から、下記の㉞~㉟に該当する場合は集計対象から除外した。

㉞性別不詳の場合

半陰陽や性同一性障害による戸籍性別の変更等のため、性別で特有の臓器に発生した腫瘍と戸籍上の性別が矛盾していないかを確認した上で、性別が不詳(項目:性別が9)であった者を除外した。性別で特有の臓器に発生した腫瘍について矛盾があった場合は、臓器に基づいて性別を修正した上で集計した(例:前立腺と登録があった場合に性別が女性として登録されていたら、男性として集計)。

㉟追跡終了日の年月が不明の場合

追跡終了日は、「項目660:予後調査結果」が死亡であった場合は死亡日、生存であった場合は最終生存確認日となる。ただし、死亡例であっても死亡日の年または月が不明の場合は、打ち切り扱いとし、生存最終確認日を追跡終了日とした。追跡終了日の年あるいは月が不明であった場合は、集計対象から除外した。

㊱UICC TNM 分類総合ステージが0期の場合

病期は、患者の予後を予測する上で重要である。院内がん登録では、UICC TNM 分類に基づく治療の選択と評価に不可欠である臨床分類(治療前ステージ)と、術後アジュバント療法の指針となり、予後推定や遠隔成績の計算のための追加情報を提供する術後病理学的分類ステージについて情報を収集している。本集計では、腫瘍切除例(外科的・体腔鏡的・内視鏡的治療の結果が、1:治癒切除、2:非治癒切除、3:治癒/非治癒の別不詳)については腫瘍の縮小を目的とした化学療法や放射線療法あるいは免疫・内分泌療法などを施行後の腫瘍切除例(術後病理学的ステ

ージ適応外例)及び術後病理学的ステージが不詳であった例を除き、UICC TNM 分類術後病理学的ステージをより患者の治療前の病期を表すとしてUICC TNM 分類総合ステージとして用いた。腫瘍切除例以外はUICC TNM 分類治療前ステージをUICC TNM 分類総合ステージとして用いた。なお、本集計では総合ステージが0期であった場合は、集計対象から除外した。

㊲追跡期間(日数)の確認

追跡期間(日数)は正確な生存率を算出するために必須の項目である。2008年診断例については、品質管理において、登録された追跡期間の確認を行っている。

㊳集計対象施設の選定

生存率の推定値は、生存状況把握割合に影響を受ける。10年生存率を計算する場合には、対象者全員の10年後の生存状況を把握することが必要となる。これまで、全国がんセンター協議会は、加盟施設の生存率を公表してきた。その中で、がんの生存率は生存状況把握割合を100%に近づけるほど、真の値に近づくこととされ、概ね95%以上の生存状況把握割合を維持する必要があるとされている。しかしながら、現在の院内がん登録における生存確認調査の実施においては、障害も多く、調査を実施しても生存状況が確認できず、生存状況把握割合が低い施設も存在する。また全国がんセンター協議会の生存率公表においても、改善が要するとされつつも生存状況把握割合が90%を超えた場合に施設の生存率が公表されてきた。これらの経緯を踏まえ、本集計では前述の集計対象例の生存状況把握割合が90%以上の施設を集計対象とした。具体的には、予後調査結果が生存であるが追跡期間(日数)が10年未満の打ち切り例が施設の生存率集計対象例の10%未満である施設を集計対象施設とした。

生存状況把握割合=(1-打ち切り例数/集計対象例数)×100

(2) 集計項目の定義

● 部位区分

表1-3 部位分類コード対応に基づき、作成した。

● 臨床病期

UICC TNM 分類総合ステージ

2007年診断例では、UICC TNM 分類第6版に準拠してUICC TNM 分類の治療前及び術後病理学的ステージが登録されている。

本集計では、がん患者の予後に影響するステージとして、治療開始時点でのがんの状態をより正確に表している術後病理学的ステージがある場合(適応外、不詳、空欄を除く)は術後病理学的ステージを、無い場合は治療前ステージを用いて、UICC TNM 分類総合ステージとして集計に用いた。なお、本集計では、各施設で登録されたステージの値を用いて集計をしており、登録されているTNM情報からみてステージがUICC TNM 分類のステージと一致しない場合であってもデータに修

正は加えていない。

癌腫別の集計対象は、以下の組織形態コードとする。
8051-8084, 8090-9110, 8120-8131, 8140-8149,
8160-8162, 8190-8221, 8260-8337, 8350-8551,
8570-8576, 8940-8941, 8030-8046, 8150-8157,
8170-8180, 8230-8231, 8246-8247, 8250-8255,
8340-8347, 8560-8562, 8580-8671, 8010-8015,
8020-8022, 8050, 8000-8005
但し、前立腺は8120-8131を除く。

局在コードは、原則として別途定める部位分類コードに基づく。肺はC34、肝細胞癌はC22.0、肝内胆管はC22.1を対象とした。

● 観血的治療

当該がんに対する外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度について、「項目 520:外科的・体腔鏡的・内視鏡的治療の結果」に登録することとなっている。登録の際には、「1:原発巣-治癒切除」、「2:原発巣-非治癒切除」、「3:原発巣-治癒/非治癒の別不詳」、「4:姑息/対象治療、転移巣切除」、「8:その他」、「9:不詳」の中から一つを選択する。本集計では、観血的治療の有無、外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度別に生存率を集計した。

(3) 集計方法

前述のとおり選定された集計対象例・集計対象施設において、10年後の生存状況変数を作成し生存率を推定した。追跡期間(日数)が10年未満でかつ予後調査結果が死亡であった場合は、10年後の生存状況＝死亡(1)とした。

生存率は、Kaplan-Meier 法を用いた実測生存率と、

国立がん研究センターがん対策情報センターがん登録センターにおいて作成されたコホート生存率表を用い、Ederer II 法を用いた相対生存率を推定した。がんごとの集計では、これまで部位別にかわり UICC TNM 分類の登録対象である癌腫別に集計を行った。なお、本報告書では StataMP 16.0 (Stata Corporation, College Station, TX, USA)を用い、Paul W. Dickman らが開発した strsr を用いて相対生存率を推定している。

(4) 公表の対象

令和2年度第1回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会がん登録部会での検討に基づき、以下の公表基準に沿って、生存率を公表する。

生存率の推定値は、対象例数、死亡者数等の件数に依存する。一般に対象例数が30例未満の場合、推定された生存率の信頼性が低くなるため、本集計では対象例数が30例未満の場合は、10年生存率を公表しないこととする。なお、各集計表において、集計値が10未満の場合、個人が特定される可能性が高いことから、厚生労働省平成28年8月4日第8回がん診療提供体制のあり方に関する検討会での検討に従い1-3件、4-6件、7-9件といった形で公表する。

なお、都道府県別生存率については、当該都道府県で集計対象が1施設となる場合は表示していない。

参考資料

1)全国がんセンター協議会. 全がん協加盟施設におけるがん患者生存率公表にあたっての指針(案)
2004/11/25版 厚生労働省がん研究助成金「地域がん専門診療施設におけるソフト面の整備拡充に関する研究」班

表1-1 集計用診断日決定のルール

集計用症例区分	集計用診断日	備考
1:診断のみ	診断日2	
2:自施設診断自施設治療	診断日2	
3:他施設診断自施設治療	当該腫瘍初診日	
4:初回治療開始後の症例、 もしくは再発症例	当該腫瘍初診日	*
5:剖検	診断日2	死亡日
8:その他	診断日2、当該腫瘍初診日のいずれか	*

* 優先する集計用診断日となる日付が登録されていない場合、診断日 2、当該腫瘍初診日、診断日 1、入院日の中で、2008 年の日付の項目を用いて作成した。

表 1-2 集計用症例区分の決定のルール

診断区分	診断施設	治療方針	集計用症例区分
1:初発	1:自施設診断	1:自施設で治療	2:自施設診断自施設治療
1:初発	1:自施設診断	3:自施設で経過観察	2:自施設診断自施設治療
1:初発	1:自施設診断	4:他施設へ紹介	1:診断のみ
1:初発	1:自施設診断	8:来院中断	1:診断のみ
1:初発	1:自施設診断	9:その他	1:診断のみ
1:初発	2:他施設診断	1:自施設で治療	3:他施設診断自施設治療
1:初発	2:他施設診断	3:自施設で経過観察	3:他施設診断自施設治療
1:初発	2:他施設診断	4:他施設へ紹介	8:その他
1:初発	2:他施設診断	8:来院中断	8:その他
1:初発	2:他施設診断	9:その他	8:その他
2:治療開始後	2:他施設診断	1:自施設で治療	4:初回治療開始後の症例、 もしくは再発症例
2:治療開始後	2:他施設診断	3:自施設で経過観察	4:初回治療開始後の症例、 もしくは再発症例
2:治療開始後	2:他施設診断	4:他施設へ紹介	8:その他
2:治療開始後	2:他施設診断	8:来院中断	8:その他
2:治療開始後	2:他施設診断	9:その他	8:その他

症例区分が登録されているケースでは症例区分を優先、症例区分が登録されていない例では、診断区分・診断施設・治療方針から上記のルールで変換した集計用症例区分を用いて集計用症例区分を作成した。

表 1-3 部位分類コード対応

部位名	第 1 段階 ICD-O-3 形態コード	第 2 段階 ICD-O-3 部位コード
口腔・咽頭		C00-C14
食道		C15
胃		C16
結腸		C18
直腸		C19-C20
大腸		C18-C20
肝臓		C22
胆嚢・胆管		C23-C24
膵臓		C25
喉頭		C32
肺		C33-C34
骨・軟部		C40-C41、C47、C49
皮膚(黒色腫を含む)		C44
乳房		C50
子宮頸部		C53
子宮体部		C54
子宮		C55
卵巣		C56
前立腺		C61
膀胱		C67
腎・他の尿路		C64-C66、C68
脳・中枢神経系		C700、C71、C722-C729、C751-C753
甲状腺		C73
悪性リンパ腫	959-972 974-975	
多発性骨髄腫	973、976	
白血病	980-994	
他の造血器腫瘍	995-998	C421
その他		第 1 段階、第 2 段階で変換された以外の症例

II 2008年10年生生存率集計 結果概要

1. 調査参加施設と登録数

調査を依頼した764施設のうち、330施設(がん診療連携拠点病院等311施設、都道府県推薦病院19施設)から10年予後情報付腫瘍データが提供された(協力率43.2%)。そのうち通年データでなかった1施設を除外し、がん診療連携拠点病院等310施設、都道府県推薦病院19施設のデータを集計した。なお、表2-1-1に全登録数と集計対象を示す。

2. 集計対象

(1) 集計の対象

① 集計対象例の選定

i 自施設診断自施設初回治療及び他施設診断自施設初回治療

提出されたデータ全体で、「自施設診断・自施設初回治療(症例区分2)」が262,167例(63.2%)、「他施設診断・自施設初回治療(症例区分3)」が83,800例(20.2%)であり、全登録数の83.4%を占めた。

ii 悪性新生物<腫瘍>

症例区分2,3(自施設診断・自施設初回治療又は他施設診断・自施設初回治療)のうち悪性新生物<腫瘍>(新生物<腫瘍>の性状コードが3)は、312,089例(90.2%)であった。脳腫瘍の良性又は良性・悪性の別不詳を合わせると集計対象腫瘍例は、317,667例(91.8%)であった。

iii 年齢

診断時の年齢を見ると、100歳以上が52例あり、生存率集計からは除外した。年齢別にみると、70歳代が32.0%と最も多く、次いで60歳代が27.4%であった。

上記で選定した例から、性別不詳及び追跡終了日不

明またはUICC TNM分類総合ステージ0期の合計68例を集計対象から除外した。

② 追跡期間(日数)の確認

予後情報付データ収集では、品質管理において追跡期間の確認を行った。なお、追跡終了日(死亡例の場合は、死亡日の年月、生存例の場合は、生存最終確認日の年月)が不明の場合は集計対象から除外した。但し、死亡例で死亡日の年月が不明であっても、生存最終確認日の年月が判明している場合は、生存最終確認日を追跡終了日とし、打ち切り例として集計した。

(2) 生存状況把握割合

各施設における集計対象例に対する生存状況把握割合について検討した結果、最も低かった施設の生存状況把握割合は、41.9%で、最も高かった施設は100.0%であった。都道府県・施設別生存状況把握割合について図2-1に示した。以降の集計結果では、生存状況把握割合が90%以上であった240施設(がん診療連携拠点病院234施設、都道府県推薦病院6施設)における登録例を集計対象とした。

3. 相対生存率集計対象者

全がんで生存状況把握割合が90%以上であった240施設において集計対象例は、237,892例であった。

表 2-1-1 調査参加施設の全登録数と集計対象

	集計対象外施設		集計対象施設		全体	
	89 施設	(%)	240 施設	(%)	329 施設	(%)
全登録数	104,380	100.0	310,380	100.0	414,760	100.0
症例区分別登録数						
1. 診断のみ	5,193	5.0	13,746	4.4	18,939	4.6
2. 自施設診断・自施設初回治療	67,262	64.4	194,905	62.8	262,167	63.2
3. 他施設診断・自施設初回治療	20,060	19.2	63,740	20.5	83,800	20.2
4. 初回治療開始後・再発	9,714	9.3	28,337	9.1	38,051	9.2
5. 剖検	62	0.1	150	0.0	212	0.1
6. 不明・その他	2,089	2.0	9,502	3.1	11,591	2.8
症例区分(2, 3)(再掲)	87,322	83.7	258,645	83.3	345,967	83.4
症例区分 2, 3のうち						
良性	1,549	1.8	3,182	1.2	4,731	1.4
良性又は悪性の別不詳	231	0.3	616	0.2	847	0.2
上皮内癌	7,625	8.7	20,675	8.0	28,300	8.2
悪性新生物<腫瘍>	77,917	89.2	234,172	90.5	312,089	90.2
集計対象腫瘍*	79,697	91.3	237,970	92.0	317,667	91.8
症例区分 2, 3、集計対象腫瘍のうち(年齢不詳除く)						
年齢 0~14 歳	306	0.4	931	0.4	1,237	0.4
15~39 歳	2,818	3.5	8,493	3.6	11,311	3.6
40 歳代	4,797	6.0	14,735	6.2	19,532	6.1
50 歳代	12,303	15.4	37,652	15.8	49,955	15.7
60 歳代	22,090	27.7	64,874	27.3	86,964	27.4
70 歳代	25,457	31.9	76,039	32.0	101,496	32.0
80-99 歳	11,911	14.9	35,209	14.8	47,120	14.8
100 歳以上	15	0.0	37	0.0	52	0.0
0~99 歳(再掲)	79,682	100.0	237,933	100.0	317,615	100.0
除外対象(以下重複有)	27	0.0	41	0.0	68	0.0
性別不詳	0	0.0	0	0.0	0	0.0
追跡終了日不明	(1-3)		(1-3)		(1-3)	
総合ステージ 0 期	25	8.2	40	4.3	65	5.3
集計対象例	79,655		237,892		317,547	

*症例区分 2, 3のうち、悪性新生物<腫瘍>、脳・中枢神経系に発生した良性または良性・悪性の別不詳の腫瘍を含む

表 2-2-1 がん診療連携拠点病院等調査参加 310 施設の全登録数及び症例区分 2, 3 の登録数

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設診断 自施設治療 (症例区分 2)	他施設診 断自施設 治療 (症 例区分 3)	自施設治療 (症例区分 2, 3) 登録 割合
総数		234	400,134	251,849	81,543	83.3
北海道	北海道がんセンター	集計対象	1620	1011	267	78.9
北海道	JA 北海道厚生連 旭川厚生病院		1416	865	280	80.9
北海道	王子総合病院	集計対象	871	657	107	87.7
北海道	市立釧路総合病院		875	631	127	86.6
北海道	JA 北海道厚生連帯広厚生病院	集計対象	1084	890	147	95.7
北海道	北見赤十字病院	集計対象	780	552	103	84.0
北海道	日鋼記念病院		496	291	39	66.5
北海道	札幌医科大学附属病院		1891	936	473	74.5
北海道	手稲溪仁会病院		1786	1119	294	79.1
北海道	旭川医科大学病院		1350	659	440	81.4
青森	青森県立中央病院		1734	1033	360	80.3
青森	八戸市立市民病院	集計対象	566	406	129	94.5
岩手	岩手県立中央病院	集計対象	1813	1307	368	92.4
岩手	岩手県立二戸病院	集計対象	381	232	44	72.4
岩手	岩手医科大学附属病院	集計対象	1658	805	691	90.2
岩手	岩手県立中部病院		481	320	108	89.0
岩手	岩手県立磐井病院		552	362	140	90.9
岩手	岩手県立宮古病院	集計対象	441	313	59	84.4
岩手	岩手県立釜石病院	集計対象	359	174	76	69.6
宮城	東北大学病院	集計対象	3200	1189	866	64.2
宮城	宮城県立がんセンター	集計対象	1852	1028	336	73.7
宮城	石巻赤十字病院	集計対象	1274	831	144	76.5
宮城	仙台医療センター		1150	759	318	93.7
宮城	大崎市民病院	集計対象	1520	1020	259	84.1
宮城	独立行政法人労働者健康安全機構 東 北労災病院	集計対象	723	472	154	86.6
秋田	秋田大学医学部附属病院	集計対象	1491	683	466	77.1
秋田	JA 秋田厚生連 由利組合総合病院	集計対象	636	515	48	88.5
秋田	秋田県農業協同組合連合会 大曲厚生 医療センター	集計対象	616	455	110	91.7
秋田	秋田県厚生農業協同組合連合会 平鹿 総合病院		807	672	104	96.2
秋田	秋田県厚生農業協同組合連合会 能代 厚生医療センター	集計対象	456	335	49	84.2
秋田	秋田赤十字病院	集計対象	1054	789	159	89.9
秋田	秋田県厚生農業協同組合連合会 秋田 厚生医療センター	集計対象	768	558	132	89.8
山形	山形県立中央病院	集計対象	1607	1137	335	91.6
山形	山形大学医学部附属病院	集計対象	1326	787	344	85.3
山形	山形市立病院済生館	集計対象	891	674	113	88.3
山形	置賜広域病院企業団 公立置賜総合病 院	集計対象	693	430	214	92.9
山形	日本海総合病院		1316	677	484	88.2
福島	労働者健康安全機構 福島労災病院	集計対象	802	530	213	92.6
福島	福島県立医科大学附属病院	集計対象	1954	913	437	69.1
福島	太田西ノ内科病院	集計対象	1696	1098	321	83.7
福島	竹田総合病院		986	534	271	81.6
福島	総合南東北病院	集計対象	1499	855	313	77.9
福島	会津中央病院	集計対象	726	571	86	90.5
茨城	茨城県立中央病院	集計対象	1347	894	233	83.7
茨城	筑波メディカルセンター病院・茨城県 地域がんセンター	集計対象	822	559	106	80.9
茨城	土浦協同病院		1499	1135	179	87.7
茨城	株式会社日立製作所 日立総合病院・ 茨城県地域がんセンター		1483	1189	175	92.0

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設診断 自施設治療 (症例区分 2)	他施設診 断自施設 治療(症 例区分 3)	自施設治療 (症例区分 2, 3) 登録 割合
茨城	東京医科大学茨城医療センター	集計対象	571	397	88	84.9
茨城	友愛記念病院	集計対象	822	391	144	65.1
茨城	国立大学法人 筑波大学附属病院	集計対象	1693	1024	415	85.0
茨城	株式会社 日立製作所 ひたちなか総合病院	集計対象	343	280	23	88.3
茨城	医療法人社団善仁会 小山記念病院		405	208	14	54.8
栃木	地方独立行政法人栃木県立がんセンター	集計対象	1918	1030	521	80.9
栃木	自治医科大学附属病院	集計対象	3178	1866	734	81.8
栃木	栃木県済生会宇都宮病院	集計対象	1454	1078	163	85.4
栃木	獨協医科大学病院	集計対象	2062	1414	440	89.9
栃木	那須赤十字病院	集計対象	783	586	45	80.6
群馬	群馬県立がんセンター	集計対象	1796	833	543	76.6
群馬	独立行政法人国立病院機構 渋川医療センター	集計対象	384	278	73	91.4
群馬	独立行政法人国立病院機構 高崎総合医療センター	集計対象	797	531	101	79.3
群馬	桐生厚生総合病院		824	640	65	85.6
群馬	前橋赤十字病院	集計対象	1151	801	223	89.0
埼玉	さいたま赤十字病院	集計対象	1057	837	141	92.5
埼玉	埼玉県立がんセンター	集計対象	3052	1744	1006	90.1
埼玉	深谷赤十字病院		596	508	76	98.0
埼玉	春日部市立医療センター	集計対象	593	362	65	72.0
埼玉	さいたま市立病院		1012	741	156	88.6
埼玉	川口市立医療センター		936	664	118	83.5
埼玉	埼玉医科大学国際医療センター	集計対象	3383	1587	997	76.4
埼玉	社会福祉法人恩賜財団済生会支部埼玉県済生会川口総合病院	集計対象	947	683	64	78.9
千葉	国立研究開発法人 国立がん研究センター 東病院	集計対象	4496	1723	1497	71.6
千葉	国保旭中央病院		2180	1882	176	94.4
千葉	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院	集計対象	2143	1637	309	90.8
千葉	国保直営総合病院 君津中央病院	集計対象	1051	805	77	83.9
千葉	千葉県がんセンター	集計対象	3683	1453	1209	72.3
千葉	独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院	集計対象	855	622	145	89.7
千葉	船橋市立医療センター	集計対象	857	607	181	91.9
千葉	千葉大学医学部附属病院	集計対象	2295	1245	811	89.6
千葉	独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター	集計対象	700	551	109	94.3
千葉	東京歯科大学市川総合病院	集計対象	947	682	92	81.7
千葉	順天堂大学医学部附属浦安病院	集計対象	1367	1025	183	88.4
千葉	東京慈恵会医科大学附属柏病院	集計対象	1170	1011	74	92.7
千葉	日本医科大学千葉北総病院	集計対象	820	585	146	89.1
東京	国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院	集計対象	6752	2302	1887	62.0
東京	東京都立駒込病院	集計対象	3612	1811	717	70.0
東京	N T T 東日本関東病院	集計対象	2261	1197	433	72.1
東京	日本赤十字社医療センター		1715	875	263	66.4
東京	日本大学医学部附属板橋病院	集計対象	1548	1151	229	89.1
東京	武蔵野赤十字病院		1690	1159	247	83.2
東京	国立大学法人 東京大学医学部附属病院		3166	1449	747	69.4
東京	日本医科大学付属病院		2238	1363	505	83.5
東京	聖路加国際病院	集計対象	2293	1339	495	80.0
東京	帝京大学医学部附属病院	集計対象	1488	958	370	89.2
東京	東京医科大学八王子医療センター		1420	992	202	84.1

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設診断 自施設治療 (症例区分 2)	他施設診 断自施設 治療(症 例区分 3)	自施設治療 (症例区分 2, 3) 登録 割合
東京	杏林大学医学部付属病院	集計対象	1162	911	202	95.8
東京	順天堂大学医学部附属順天堂医院		3163	1851	792	83.6
神奈川	神奈川県立がんセンター	集計対象	2567	1447	801	87.6
神奈川	国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院	集計対象	1864	1344	269	86.5
神奈川	横浜市立市民病院	集計対象	1422	1040	270	92.1
神奈川	小田原市立病院	集計対象	646	404	82	75.2
神奈川	川崎市立井田病院	集計対象	547	345	52	72.6
神奈川	相模原協同病院		949	558	119	71.3
神奈川	横浜市立大学附属病院		2068	975	631	77.7
神奈川	聖マリアンナ医科大学病院	集計対象	2042	1857	112	96.4
神奈川	東海大学医学部付属病院		2773	1734	669	86.7
神奈川	藤沢市民病院		941	696	156	90.5
神奈川	北里大学病院	集計対象	2076	1543	400	93.6
神奈川	横浜労災病院		1472	960	179	77.4
新潟	新潟県立がんセンター新潟病院	集計対象	2919	1749	945	92.3
新潟	新潟県立中央病院	集計対象	1239	890	230	90.4
新潟	新潟市民病院		1352	1008	265	94.2
新潟	長岡赤十字病院	集計対象	1448	1123	225	93.1
新潟	新潟県厚生農業協同組合連合会 長岡中央総合病院	集計対象	1427	1025	335	95.3
新潟	新潟大学医歯学総合病院		1824	955	625	86.6
新潟	県立新発田病院	集計対象	1033	713	253	93.5
富山	富山県立中央病院	集計対象	1980	1319	404	87.0
富山	黒部市民病院	集計対象	638	520	56	90.3
富山	富山大学附属病院	集計対象	1011	632	194	81.7
富山	厚生連高岡病院	集計対象	1091	815	150	88.5
富山	高岡市民病院		646	533	58	91.5
富山	市立砺波総合病院		658	513	38	83.7
石川	国立大学法人金沢大学附属病院	集計対象	1505	820	428	82.9
石川	独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター	集計対象	711	496	92	82.7
石川	石川県立中央病院	集計対象	1503	894	420	87.4
石川	金沢医科大学病院	集計対象	886	584	154	83.3
石川	国民健康保険 小松市民病院	集計対象	677	495	67	83.0
福井	福井県立病院	集計対象	1308	923	225	87.8
福井	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 福井県済生会病院	集計対象	1249	913	203	89.4
福井	福井赤十字病院	集計対象	1056	842	120	91.1
福井	福井大学医学部附属病院	集計対象	1008	622	264	87.9
福井	独立行政法人国立病院機構敦賀医療センター		135	102	25	94.1
山梨	山梨県立中央病院	集計対象	1525	923	267	78.0
山梨	国立大学法人 山梨大学医学部附属病院	集計対象	1458	958	243	82.4
長野	長野県厚生農業協同組合連合会 佐久総合病院	集計対象	1265	815	407	96.6
長野	国立大学法人 信州大学医学部附属病院	集計対象	1322	813	321	85.8
長野	諏訪赤十字病院	集計対象	843	617	159	92.1
長野	飯田市立病院	集計対象	435	322	84	93.3
長野	長野市民病院	集計対象	1335	902	274	88.1
長野	長野赤十字病院	集計対象	1210	759	220	80.9
長野	社会医療法人財団慈泉会 相澤病院	集計対象	1102	811	110	83.6
長野	伊那中央病院	集計対象	679	507	105	90.1
岐阜	岐阜市民病院		1184	898	181	91.1

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設診断 自施設治療 (症例区分 2)	他施設診 断自施設 治療(症 例区分 3)	自施設治療 (症例区分 2, 3)登録 割合
岐阜	国立大学法人東海国立大学機構 岐阜 大学医学部附属病院		1699	824	471	76.2
岐阜	高山赤十字病院	集計対象	388	317	16	85.8
岐阜	岐阜県総合医療センター	集計対象	1327	845	209	79.4
岐阜	岐阜県立多治見病院	集計対象	1011	762	138	89.0
岐阜	大垣市民病院	集計対象	1513	1276	164	95.2
岐阜	社会医療法人厚生会 木沢記念病院	集計対象	953	364	91	47.7
静岡	静岡県立静岡がんセンター	集計対象	4630	2314	1544	83.3
静岡	静岡県立総合病院	集計対象	2160	1402	504	88.2
静岡	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合 病院 聖隷三方原病院	集計対象	1288	813	167	76.1
静岡	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合 病院 聖隷浜松病院	集計対象	1955	1287	415	87.1
静岡	順天堂大学医学部附属静岡病院	集計対象	1184	802	137	79.3
静岡	静岡市立静岡病院	集計対象	665	570	56	94.1
静岡	藤枝市立総合病院	集計対象	993	768	83	85.7
静岡	浜松医科大学医学部附属病院	集計対象	1167	640	368	86.4
静岡	浜松医療センター	集計対象	930	673	144	87.8
愛知	愛知県がんセンター	集計対象	2676	1214	1199	90.2
愛知	愛知県厚生農業協同組合連合会 安城 更生病院	集計対象	1787	1274	209	83.0
愛知	海南病院	集計対象	890	729	96	92.7
愛知	国立病院機構 名古屋医療センター	集計対象	1152	940	115	91.6
愛知	小牧市民病院	集計対象	1502	1129	216	89.5
愛知	豊橋市民病院	集計対象	1585	1209	265	93.0
愛知	名古屋大学医学部附属病院		2209	1003	881	85.3
愛知	独立行政法人 地域医療機能推進機構 中京病院		1011	802	138	93.0
愛知	一宮市立市民病院	集計対象	1116	923	164	97.4
愛知	公立陶生病院	集計対象	1017	836	97	91.7
愛知	愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田 厚生病院	集計対象	1027	719	130	82.7
愛知	名古屋第一赤十字病院	集計対象	1711	1261	177	84.0
三重	松阪中央総合病院		702	530	49	82.5
三重	三重大学医学部附属病院		1585	916	379	81.7
三重	三重県厚生農業協同組合連合会鈴鹿中 央総合病院		874	731	80	92.8
三重	市立四日市病院		1537	1001	242	80.9
滋賀	市立長浜病院	集計対象	468	425	21	95.3
滋賀	滋賀県立総合病院		970	683	150	85.9
滋賀	大津赤十字病院		1148	884	158	90.8
京都	京都桂病院		1148	891	146	90.3
京都	京都市立病院	集計対象	940	609	118	77.3
京都	京都第一赤十字病院		1323	998	225	92.4
京都	京都第二赤十字病院		1403	1086	126	86.4
京都	独立行政法人国立病院機構 京都医療 センター		1470	991	257	84.9
京都	市立福知山市民病院	集計対象	629	378	87	73.9
京都	京都岡本記念病院		325	213	14	69.8
大阪	大阪府立病院機構 大阪急性期・総合 医療センター	集計対象	1485	977	173	77.4
大阪	市立岸和田市民病院	集計対象	1202	826	158	81.9
大阪	地方独立行政法人市立東大阪医療セン ター		1148	910	128	90.4
大阪	市立豊中病院	集計対象	1455	1064	238	89.5
大阪	大阪国際がんセンター	集計対象	3164	2453	208	84.1

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設診断 自施設治療 (症例区分 2)	他施設診 断自施設 治療(症 例区分 3)	自施設治療 (症例区分 2, 3) 登録 割合
大阪	地方独立行政法人大阪市民病院機構 大 阪市立総合医療センター	集計対象	2452	1424	488	78.0
大阪	大坂赤十字病院	集計対象	1904	1513	279	94.1
大阪	独立行政法人国立病院機構大阪南医療 センター	集計対象	741	506	132	86.1
大阪	独立行政法人労働者健康安全機構大阪 労災病院	集計対象	1460	1007	229	84.7
大阪	大阪医科大学附属病院	集計対象	1730	871	634	87.0
大阪	大阪市立大学医学部附属病院	集計対象	1293	790	298	84.1
大阪	独立行政法人国立病院機構大阪医療セ ンター	集計対象	1367	906	329	90.3
兵庫	兵庫県立がんセンター	集計対象	3060	1694	796	81.4
兵庫	神戸大学医学部附属病院	集計対象	2911	1340	783	72.9
兵庫	神戸市立医療センター中央市民病院	集計対象	1706	1183	375	91.3
兵庫	独立行政法人労働者健康安全機構 関 西労災病院		1628	963	350	80.7
兵庫	公立学校共済組合 近畿中央病院	集計対象	691	491	108	86.7
兵庫	姫路赤十字病院	集計対象	1643	1152	330	90.2
兵庫	赤穂市民病院	集計対象	540	439	30	86.9
兵庫	公立豊岡病院組合立豊岡病院	集計対象	653	481	134	94.2
兵庫	兵庫県立淡路医療センター	集計対象	685	509	57	82.6
兵庫	兵庫医科大学病院		2421	1246	537	73.6
兵庫	兵庫県立丹波医療センター	集計対象	167	81	55	81.4
奈良	奈良県立医科大学附属病院	集計対象	2080	1060	439	72.1
奈良	奈良県総合医療センター	集計対象	660	483	139	94.2
奈良	天理よろづ相談所病院		1447	1180	247	98.6
奈良	近畿大学奈良病院		923	583	178	82.4
奈良	市立奈良病院	集計対象	396	316	69	97.2
和歌山	紀南病院		667	388	120	76.2
和歌山	南和歌山医療センター		393	234	102	85.5
和歌山	日本赤十字社和歌山医療センター	集計対象	1107	942	141	97.8
和歌山	公立那賀病院		600	377	69	74.3
鳥取	鳥取県立厚生病院	集計対象	396	299	52	88.6
鳥取	独立行政法人国立病院機構 米子医療 センター	集計対象	550	321	100	76.5
鳥取	鳥取県立中央病院	集計対象	674	567	39	89.9
島根	松江市立病院	集計対象	771	524	97	80.5
島根	松江赤十字病院		1092	836	147	90.0
島根	島根大学医学部附属病院	集計対象	1182	813	200	85.7
島根	島根県立中央病院	集計対象	1305	1026	109	87.0
島根	独立行政法人国立病院機構 浜田医療 医センター	集計対象	481	317	64	79.2
岡山	岡山済生会総合病院	集計対象	1598	890	341	77.0
岡山	岡山赤十字病院		860	621	108	84.8
岡山	公益財団法人大原記念倉敷中央医療機 構 倉敷中央病院	集計対象	2828	2069	377	86.5
岡山	津山中央病院	集計対象	1280	887	146	80.7
岡山	岡山医療センター	集計対象	993	721	114	84.1
岡山	川崎医科大学附属病院	集計対象	1471	870	403	86.5
広島	県立広島病院	集計対象	1351	751	212	71.3
広島	地方独立行政法人広島市立病院機構 広島市立広島市民病院	集計対象	2709	1642	644	84.4
広島	広島赤十字・原爆病院	集計対象	1252	962	173	90.7
広島	独立行政法人国立病院機構 呉医療セ ンター	集計対象	1436	978	209	82.7
広島	東広島医療センター	集計対象	593	373	118	82.8

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設診断 自施設治療 (症例区分 2)	他施設診 断自施設 治療(症 例区分 3)	自施設治療 (症例区分 2, 3) 登録 割合
広島	広島県厚生農業協同組合連合会 尾道 総合病院	集計対象	441	329	75	91.6
広島	福山市民病院	集計対象	1098	576	280	78.0
広島	市立三次中央病院		473	311	96	86.0
山口	地方独立行政法人山口県立病院機構 山口県立総合医療センター		578	463	82	94.3
山口	国立病院機構 岩国医療センター	集計対象	855	592	82	78.8
山口	山口県厚生農業協同組合連合会周東総 合病院	集計対象	559	429	60	87.5
山口	独立行政法人地域医療機能推進機構徳 山中央病院	集計対象	1073	825	173	93.0
山口	山口大学医学部附属病院		1530	796	491	84.1
徳島	徳島県立中央病院	集計対象	904	658	144	88.7
徳島	徳島大学病院	集計対象	1378	811	467	92.7
徳島	徳島赤十字病院	集計対象	902	558	190	82.9
香川	香川県立中央病院	集計対象	987	702	276	99.1
香川	独立行政法人労働者健康安全機構香川 労災病院	集計対象	900	671	189	95.6
香川	三豊総合病院	集計対象	963	784	93	91.1
香川	高松赤十字病院	集計対象	891	704	124	92.9
香川	国立大学法人 香川大学医学部附属病 院	集計対象	1341	632	316	70.7
愛媛	市立宇和島病院	集計対象	909	638	124	83.8
愛媛	独立行政法人国立病院機構 四国がん センター	集計対象	3046	1475	851	76.4
愛媛	住友別子病院	集計対象	572	369	50	73.3
愛媛	愛媛大学医学部附属病院	集計対象	1242	631	333	77.6
愛媛	愛媛県立中央病院	集計対象	1308	1055	201	96.0
愛媛	松山赤十字病院	集計対象	1153	922	99	88.6
愛媛	社会福祉法人恩賜財団 済生会今治病 院	集計対象	450	299	56	78.9
高知	国立大学法人 高知大学医学部付属病 院	集計対象	1749	888	355	71.1
高知	高知県・高知市病院企業団立 高知医 療センター	集計対象	911	555	322	96.3
福岡	久留米大学病院	集計対象	2238	1457	517	88.2
福岡	公立八女総合病院	集計対象	588	454	76	90.1
福岡	地方独立行政法人大牟田市立病院	集計対象	495	344	68	83.2
福岡	社会保険田川病院	集計対象	654	413	93	77.4
福岡	飯塚病院	集計対象	1899	1480	198	88.4
福岡	独立行政法人国立病院機構福岡東医療 センター	集計対象	419	289	48	80.4
福岡	北九州市立医療センター	集計対象	1979	1099	478	79.7
福岡	独立行政法人国立病院機構 九州がん センター	集計対象	2028	1008	681	83.3
福岡	国立大学法人 九州大学病院	集計対象	3362	1488	848	69.5
福岡	独立行政法人国立病院機構九州医療セ ンター		1669	992	412	84.1
福岡	福岡県済生会福岡総合病院	集計対象	1039	555	253	77.8
福岡	福岡大学病院	集計対象	1472	872	475	91.5
福岡	聖マリア病院	集計対象	1179	859	49	77.0
福岡	独立行政法人地域医療機能推進機構 九州病院	集計対象	1733	1052	332	79.9
福岡	産業医科大学病院		1819	917	428	73.9
福岡	国家公務員共済組合連合会 浜の町病 院		874	547	180	83.2

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設診断 自施設治療 (症例区分 2)	他施設診 断自施設 治療(症 例区分 3)	自施設治療 (症例区分 2, 3) 登録 割合
佐賀	地方独立行政法人佐賀県医療センター 好生館	集計対象	1102	626	186	73.7
佐賀	国立大学法人佐賀大学医学部附属病院	集計対象	1606	842	427	79.0
佐賀	唐津赤十字病院	集計対象	591	332	68	67.7
佐賀	独立行政法人国立病院機構 嬉野医療 センター	集計対象	660	413	116	80.2
長崎	日本赤十字社 長崎原爆病院	集計対象	880	614	206	93.2
長崎	地方独立行政法人 佐世保市総合医療 センター	集計対象	1465	1011	371	94.3
長崎	独立行政法人国立病院機構 長崎医療 センター		1361	851	249	80.8
長崎	長崎みなとメディカルセンター		942	655	165	87.0
長崎	国立大学法人 長崎大学病院	集計対象	1646	805	592	84.9
長崎	長崎県島原病院		479	294	114	85.2
熊本	熊本大学病院	集計対象	2408	1273	553	75.8
熊本	独立行政法人労働者健康安全機構 熊 本労災病院	集計対象	649	422	121	83.7
熊本	人吉医療センター	集計対象	523	300	88	74.2
熊本	熊本赤十字病院	集計対象	1238	832	267	88.8
熊本	国立病院機構 熊本医療センター	集計対象	1294	796	165	74.3
熊本	済生会熊本病院		1735	945	354	74.9
熊本	荒尾市民病院	集計対象	337	238	58	87.8
大分	大分県立病院	集計対象	1390	998	229	88.3
大分	大分赤十字病院	集計対象	593	401	126	88.9
大分	大分大学医学部附属病院	集計対象	1461	697	518	83.2
大分	独立行政法人国立病院機構別府医療セ ンター		465	354	75	92.3
大分	大分県済生会日田病院	集計対象	343	187	55	70.6
宮崎	国立病院機構 都城医療センター	集計対象	249	131	79	84.3
宮崎	国立大学法人宮崎大学医学部附属病院	集計対象	1060	549	268	77.1
鹿児島	鹿児島大学病院	集計対象	1876	741	631	73.1
鹿児島	国立病院機構 鹿児島医療センター	集計対象	641	288	179	72.9
鹿児島	鹿児島県立大島病院	集計対象	280	184	43	81.1
鹿児島	済生会川内病院		498	220	78	59.8
鹿児島	独立行政法人国立病院機構 南九州病 院	集計対象	184	157	19	95.7
鹿児島	県民健康プラザ鹿屋医療センター	集計対象	157	75	48	78.3
鹿児島	社会医療法人博愛会 相良病院		618	477	104	94.0
沖縄	地方独立行政法人那覇市立病院	集計対象	695	415	129	78.3
沖縄	北部地区医師会病院		184	114	11	67.9
沖縄	沖縄県立中部病院	集計対象	780	510	101	78.3
沖縄	国立大学法人 琉球大学病院	集計対象	1209	480	412	73.8

表 2-2-2 都道府県推薦病院調査参加 19 施設の全登録数及び症例区分 2, 3 の登録数

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設診断 自施設治療 (症例区分 2)	他施設診 断自施設 治療 (症 例区分 3)	自施設治療 (症例区分 2, 3) 登録 割合
総数		6	10,548	8,069	1,204	87.9
北海道	社会医療法人 製鉄記念室蘭病院		640	552	18	89.1
北海道	苫小牧市立病院		504	449	(7-9)	90.9
秋田	中通総合病院	集計対象	640	424	130	86.6
群馬	群馬中央病院		250	249	0	99.6
東京	東京女子医科大学病院		3324	1700	982	80.7
東京	日本医科大学多摩永山病院		407	269	79	85.5
東京	東京都済生会中央病院		931	619	77	74.8
神奈川	済生会横浜市南部病院		944	724	92	86.4
富山	富山赤十字病院		759	564	88	85.9
静岡	沼津市立病院	集計対象	1031	727	173	87.3
静岡	焼津市立総合病院	集計対象	837	623	72	83.0
愛知	医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院		1274	1074	128	94.3
三重	済生会松阪総合病院		555	461	55	93.0
大阪	地方独立行政法人市立吹田市民病院		492	336	94	87.4
大阪	社会医療法人生長会 ベルランド総合 病院	集計対象	334	279	(1-3)	83.8
兵庫	神鋼記念病院		602	483	83	94.0
島根	松江医療センター	集計対象	114	98	(7-9)	93.0
高知	高知赤十字病院		721	509	115	86.5
熊本	天草地域医療センター	集計対象	267	178	53	86.5

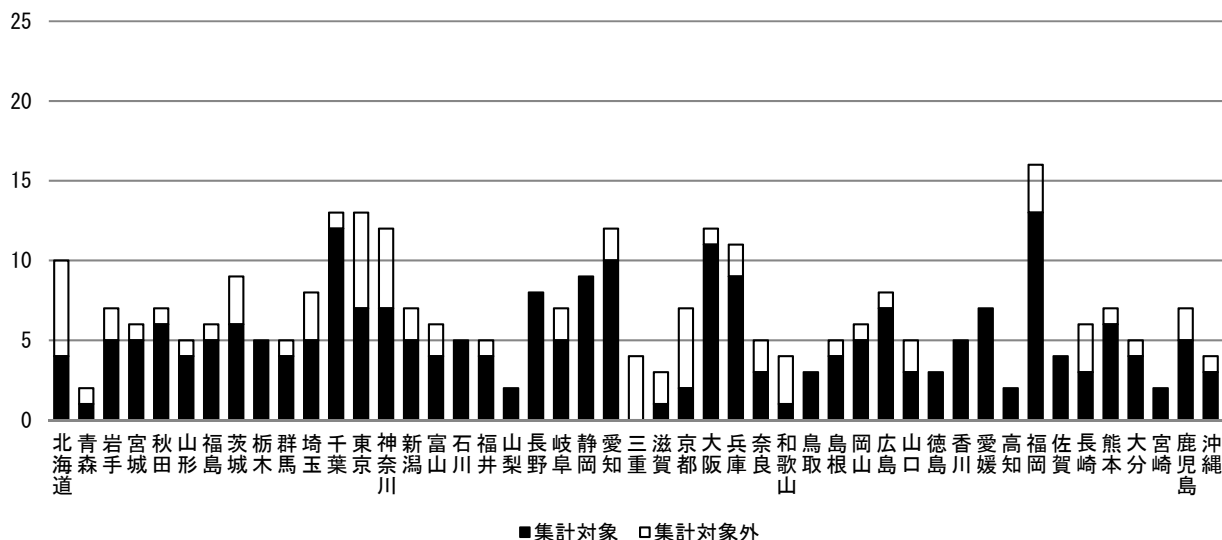


図 2-1-1 がん診療連携拠点病院等における都道府県・施設別生存状況把握割合 (都道府県推薦病院を除く)

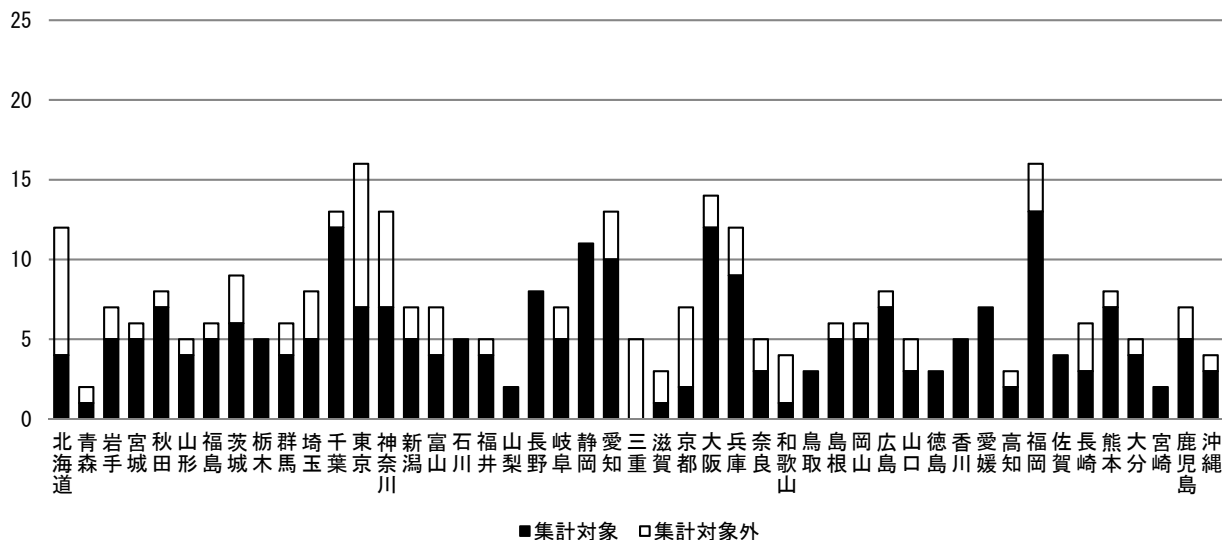


図 2-1 参考 調査参加施設における都道府県・施設別生存状況把握割合

Ⅲ 2008年10年生存率集計 結果詳細(全体) : 悪性新生物<腫瘍>

1. 全がん

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	生存状況把握割合 (%)	平均年齢
2008	240	237,892	126,587	96.2	66.6

(0) 全がんの生存率集計値

全がんでの生存率集計値の算定に当たり、特性が異なるがんの生存率算定の意義について疑問を呈する声もあったが、先行する地域がん登録、全国がんセンター協議会加盟施設における既存生存率集計と比較するため、ここでは院内がん登録10年生存率集計においても全がんでの生存率集計結果について提示する。

(1) 生存状況把握割合

対象者は237,892例で、その内10年以内に死亡していた者は126,587例、打ち切りが8,983例であった。全体として、生存状況把握割合は96.2%であった。

(2) 対象者の属性

本集計対象者の属性を表3-1-1に示す。男性が57.8%、女性が42.2%とやや男性が多かった。診断時の年齢は、男女とも70歳代が最も多く、次いで60歳代となっており、60歳代、70歳代で全体の59.3%を占めた。60.2%の対象者に観血的治療が実施されており、51.4%が原発巣・治癒切除であった。発見経緯別にみると、その他・不明が6割近くであった。部位別にみると、男性では胃、肺、大腸、前立腺の順に、女性では乳房、大腸、胃の順に多かった。

表 3-1-1 対象者の属性

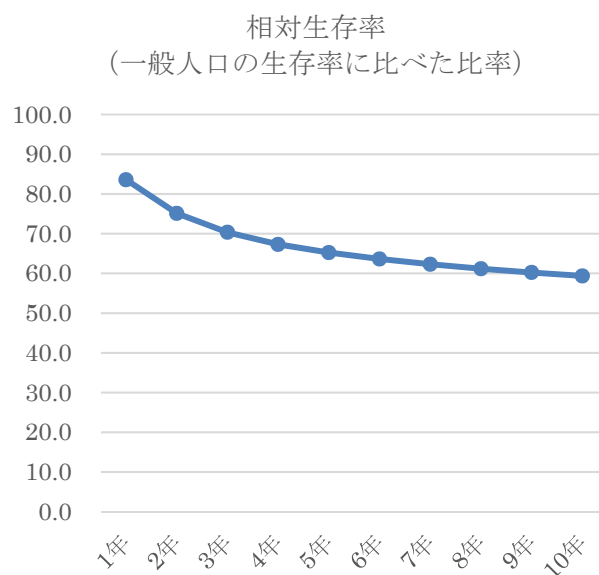
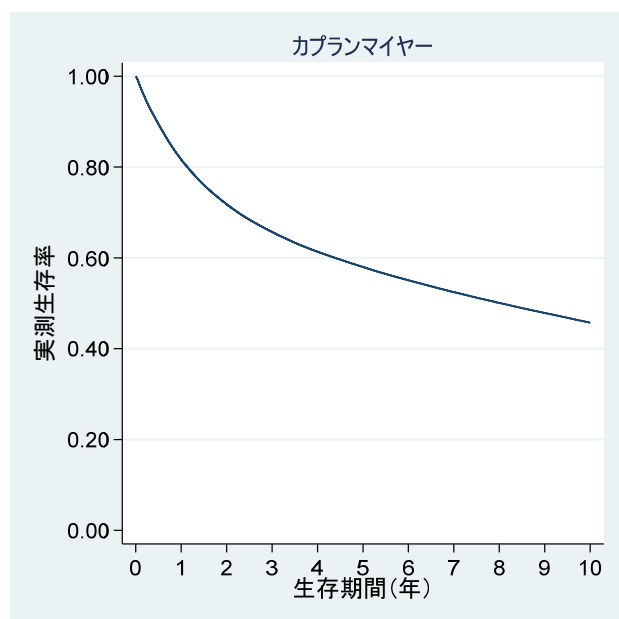
	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	137,577	100.0	100,315	100.0	237,892	100.0
拠点病院等	136,168	99.0	99,244	98.9	235,412	99.0
都道府県推薦病院	1,409	1.0	1,071	1.1	2,480	1.0
年齢						
平均年齢(SD)	68.0	11.9	64.6	14.9	66.6	13.4
0-15歳	528	0.4	403	0.4	931	0.4
15-39歳	2,931	2.1	5,558	5.5	8,489	3.6
40歳代	4,739	3.4	9,989	10.0	14,728	6.2
50歳代	19,104	13.9	18,542	18.5	37,646	15.8
60歳代	40,842	29.7	24,025	23.9	64,867	27.3
70歳代	49,791	36.2	26,239	26.2	76,030	32.0
80歳以上	19,642	14.3	15,559	15.5	35,201	14.8
観血的治療						
有	74,369	54.1	68,925	68.7	143,294	60.2
原発巣・治癒切除	63,089	45.9	59,208	59.0	122,297	51.4
原発巣・非治癒切除	7,082	5.1	5,846	5.8	12,928	5.4
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	4,198	3.1	3,871	3.9	8,069	3.4
無	63,208	45.9	31,390	31.3	94,598	39.8
発見経緯						
がん検診	9,757	7.1	9,316	9.3	19,073	8.0
健康診断・人間ドック	12,371	9.0	6,183	6.2	18,554	7.8
他疾患経過観察中	40,704	29.6	21,819	21.8	62,523	26.3
その他・不明	74,745	54.3	62,997	62.8	137,742	57.9
部位						
口腔咽頭	5,044	3.7	1,961	2.0	7,005	2.9
食道	6,718	4.9	1,100	1.1	7,818	3.3
胃	25,404	18.5	10,580	10.5	35,984	15.1
結腸	10,074	7.3	8,212	8.2	18,286	7.7
直腸	6,852	5.0	3,750	3.7	10,602	4.5
大腸(再掲)	16,926	12.3	11,962	11.9	28,888	12.1
肝臓	8,284	6.0	3,803	3.8	12,087	5.1
胆嚢胆管	2,636	1.9	2,333	2.3	4,969	2.1
膵臓	4,264	3.1	3,289	3.3	7,553	3.2
喉頭	2,203	1.6	149	0.1	2,352	1.0
肺	20,854	15.2	8,939	8.9	29,793	12.5
骨軟部	723	0.5	597	0.6	1,320	0.6
皮膚	2,928	2.1	3,011	3.0	5,939	2.5
乳房	113	0.1	20,878	20.8	20,991	8.8
子宮頸部	-		4,558	4.5	4,558	1.9
子宮体部	-		4,704	4.7	4,704	2.0
子宮	-		32	0.0	32	0.0
卵巣	-		3,321	3.3	3,321	1.4
前立腺	16,504	12.0	-		16,504	6.9
膀胱	3,977	2.9	1,128	1.1	5,105	2.1
腎尿路	4,618	3.4	2,060	2.1	6,678	2.8
脳神経	2,384	1.7	2,905	2.9	5,289	2.2
甲状腺	1,137	0.8	3,152	3.1	4,289	1.8
悪性リンパ腫	4,812	3.5	4,042	4.0	8,854	3.7
多発性骨髄腫	1,017	0.7	862	0.9	1,879	0.8
白血病	2,098	1.5	1,442	1.4	3,540	1.5
その他の血液	1,207	0.9	821	0.8	2,028	0.9
その他	3,726	2.7	2,686	2.7	6,412	2.7

(3)10年生存率

表 3-1-2 に、実測生存率及び相対生存率を示す。年齢が高いほど実測生存率と相対生存率との乖離が大きくなっているが、これは若年者と比較して高齢者ではがん以外の要因で死亡する例が多くなることが影響していると考えられる。観血的治療の実施別にみると、男女ともに観血的治療有、特に原発巣・治癒切除例において生存率が高くなっていた。

表 3-1-2 属性別 10 年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	37.8	54.9	54.5	55.2	55.3	65.2	64.9	65.6	45.7	59.4	59.1	59.6
拠点病院等	38.8	54.9	54.5	55.2	55.3	65.2	64.9	65.6	45.8	59.6	59.1	59.6
都道府県推薦病院	37.8	55.1	51.4	58.8	55.8	66.1	62.5	69.6	45.6	60.0	57.4	62.6
年齢												
0-15歳	79.0	79.2	75.4	82.4	78.7	78.8	74.4	82.5	78.9	79.0	76.2	81.5
15-39歳	72.3	73.1	71.4	74.7	80.2	80.7	79.6	81.8	77.5	78.1	77.2	79.0
40歳代	60.7	62.5	61.1	64.0	79.5	80.8	79.9	81.6	73.5	74.9	74.2	75.7
50歳代	53.1	57.6	56.8	58.4	70.0	72.3	71.6	73.0	61.4	64.9	64.4	65.5
60歳代	47.2	56.5	55.9	57.1	61.6	66.3	65.7	67.0	52.5	60.2	59.8	60.7
70歳代	32.4	53.0	52.3	53.7	44.5	56.9	56.1	57.7	36.5	54.4	53.9	54.9
80歳以上	11.8	45.1	43.4	46.9	20.3	50.6	49.0	52.3	15.5	47.8	46.6	49.1
観血的治療												
有	52.7	73.1	72.6	73.6	69.4	81.3	80.9	81.7	60.7	77.2	76.9	77.5
原発巣・治癒切除	56.1	78.1	77.6	78.7	73.0	85.7	85.3	86.1	64.3	81.9	81.6	82.3
原発巣・非治癒切除	26.3	35.3	33.9	36.7	37.0	42.7	41.2	44.1	31.1	38.7	37.7	39.7
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	45.7	61.8	59.7	63.8	62.6	72.1	70.3	73.8	53.8	66.8	65.4	68.2
無	22.2	32.8	32.3	33.3	23.9	28.9	28.3	29.4	22.7	31.4	31.1	31.8



2. 胃癌

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	生存状況把握割合 (%)	平均年齢
2008	239	35,686	18,242	96.3	69.0
I 期	239	22,290	7,507	95.9	69.0
II 期	239	2,792	1,541	96.7	69.3
III 期	237	2,868	2,065	96.6	69.0
IV 期	238	7,156	6,628	97.5	68.2

(1) 生存状況把握割合

集計対象者は、35,686 例で、10 年以内に死亡していた者は 18,242 例、打ち切りが 1,319 例で、生存状況把握割合は、全体で 96.3%であった。

70 歳代が最も多く、次いで 60 歳代となっており、60 歳代・70 歳代で全体の 6 割以上を占めた。UICC TNM 分類総合ステージを見ると、I 期が約 6 割、次いで IV 期が 2 割を占めた。約 8 割において観血的治療が実施されており、72.7%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯としては、他疾患経過観察中が 27.8%であった。

(2) 対象者の属性

胃の集計対象者の属性を表 3-2-1 に示す。性別にみると、男性が 7 割以上を占めた。診断時の年齢は、

表 3-2-1 対象者の属性

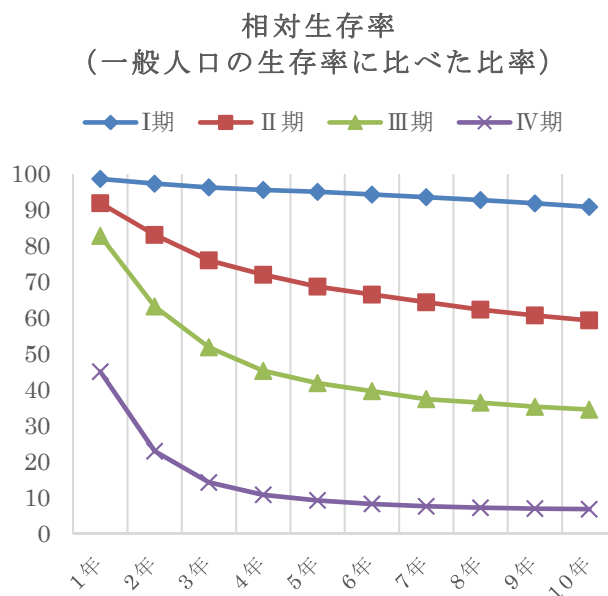
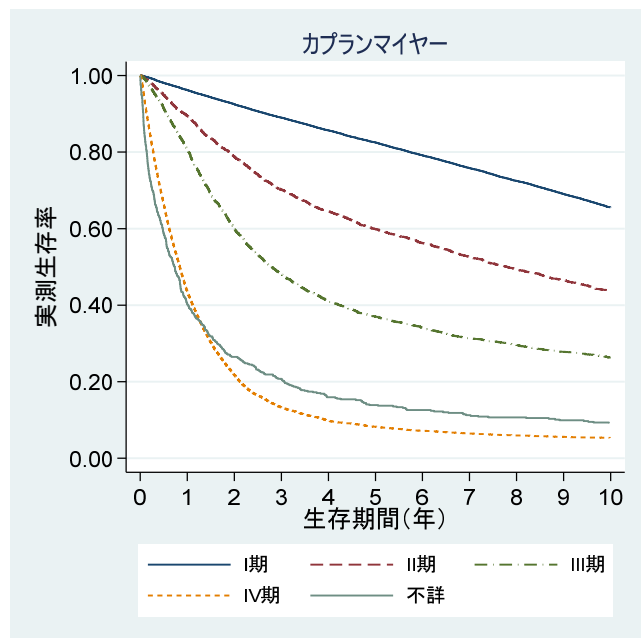
	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	25,246	100.0	10,440	100.0	35,686	100.0
拠点病院等	24,980	98.9	10,342	99.1	35,322	99.0
都道府県推薦病院	266	1.1	98	0.9	364	1.0
年齢						
平均年齢 (SD)	68.9	10.2	69.2	12.4	69.0	10.9
15-39 歳	239	0.9	261	2.5	500	1.4
40 歳代	747	3.0	488	4.7	1,235	3.5
50 歳代	3,517	13.9	1,454	13.9	4,971	13.9
60 歳代	7,632	30.2	2,482	23.8	10,114	28.3
70 歳代	9,471	37.5	3,603	34.5	13,074	36.6
80 歳以上	3,640	14.4	2,152	20.6	5,792	16.2
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	15,926	63.1	6,364	61.0	22,290	62.5
II 期	1,974	7.8	818	7.8	2,792	7.8
III 期	1,987	7.9	881	8.4	2,868	8.0
IV 期	4,979	19.7	2,177	20.9	7,156	20.1
不詳	380	1.5	200	1.9	580	1.6
観血的治療						
有	20,456	81.0	8,435	80.8	28,891	81.0
原発巣・治癒切除	18,375	72.8	7,575	72.6	25,950	72.7
原発巣・非治癒切除	1,522	6.0	655	6.3	2,177	6.1
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	559	2.2	205	2.0	764	2.1
無	4,790	19.0	2,005	19.2	6,795	19.0
発見経緯						
がん検診	2,795	11.1	1,136	10.9	3,931	11.0
健康診断・人間ドック	3,280	13.0	1,000	9.6	4,280	12.0
他疾患経過観察中	7,385	29.3	2,525	24.2	9,910	27.8
その他・不明	11,786	46.7	5,779	55.4	17,565	49.2

(3)10年生存率

男女別にみた10年相対生存率はほぼ同様であった。年代別にみると、70歳以上では実測生存率と相対生存率の乖離が大きく、がん以外による死亡も無視できないと考えられる。また、観血治療を受けた者では、相対生存率は全体で79.3%であった。

表 3-2-2 属性別 10 年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	45.8	65.5	64.6	66.4	53.0	67.1	65.9	68.4	47.9	66.0	65.3	66.7
拠点病院等	45.8	65.5	64.6	66.4	53.1	67.2	66.0	68.5	48.0	66.1	65.3	66.8
都道府県推薦病院	41.1	61.9	52.9	70.8	44.2	56.5	43.6	68.8	41.9	60.4	53.0	67.7
年齢												
15-39歳	57.8	58.5	51.8	64.7	53.2	53.6	47.2	59.6	55.4	56.0	51.4	60.3
40歳代	67.3	69.4	65.8	72.8	65.4	66.4	61.9	70.6	66.5	68.2	65.4	70.9
50歳代	65.9	71.6	69.9	73.3	66.0	68.3	65.7	70.8	65.9	70.6	69.2	72.0
60歳代	57.9	69.3	68.0	70.6	65.1	70.2	68.1	72.2	59.7	69.6	68.4	70.7
70歳代	38.6	63.1	61.5	64.7	52.8	68.0	65.8	70.1	42.5	64.6	63.3	65.9
80歳以上	14.0	51.9	47.7	56.2	27.0	62.8	58.4	67.4	18.8	56.6	53.5	59.7
UICC TNM 総合ステージ												
I期	62.3	89.6	88.5	90.7	73.9	93.9	92.5	95.2	65.6	90.9	90.0	91.8
II期	42.0	58.9	55.8	61.9	48.2	60.5	56.1	64.8	43.8	59.3	56.8	61.9
III期	23.8	32.6	30.1	35.3	32.1	38.7	35.0	42.5	26.3	34.6	32.4	36.7
IV期	5.3	7.0	6.2	7.9	5.4	6.6	5.5	7.8	5.3	6.9	6.2	7.6
不詳	9.4	14.2	10.0	19.2	9.2	15.4	9.2	23.4	9.4	14.6	11.0	18.7
観血的治療												
有	55.2	78.6	77.6	79.6	64.2	80.9	79.5	82.2	57.8	79.3	78.5	80.1
原発巣・治癒切除	58.8	83.5	82.5	84.6	68.8	86.5	85.1	87.8	61.7	84.4	83.6	85.2
原発巣・非治癒切除	16.9	24.7	21.9	27.5	16.2	21.0	17.4	24.9	16.7	23.5	21.3	25.8
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	41.7	61.0	54.9	66.9	46.2	61.2	51.9	70.1	42.9	61.1	56.0	66.0
無	4.4	7.0	6.1	8.0	4.6	6.5	5.3	8.0	4.4	6.9	6.1	7.7



3. 大腸癌

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	生存状況把握割合 (%)	平均年齢
2008	239	28,411	14,069	96.3	68.7
I 期	239	7,275	2,185	96.1	68.3
II 期	239	7,641	3,035	96.0	70.1
III 期	239	7,352	3,440	96.2	68.1
IV 期	239	5,729	5,074	97.2	67.6

(1) 生存状況把握割合

集計対象 28,411 例のうち、10 年以内に死亡していた者は 14,069 例、打ち切りが 1,052 例で、全体として生存状況把握割合は 96.3%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-3①-1 に示す。性別にみると、女性より男性がやや多く男性が約 59%を占めた。診断時の

年齢は、男女ともに 70 歳代が最も多く、次いで 60 歳代が多くなっていた。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、全体では I、II、III 期ともに 25%前後にばらついていた。88.0%の対象者がなんらかの観血的治療を受けており、75.7%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯としては、他疾患経過観察中が 23.3%、がん検診が 9.9%、健康診断・人間ドックが 7.7%であった。

表 3-3①-1 対象者の属性

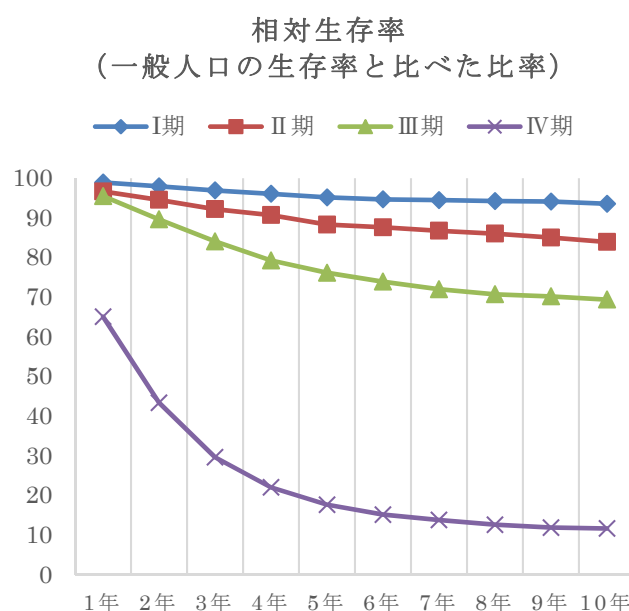
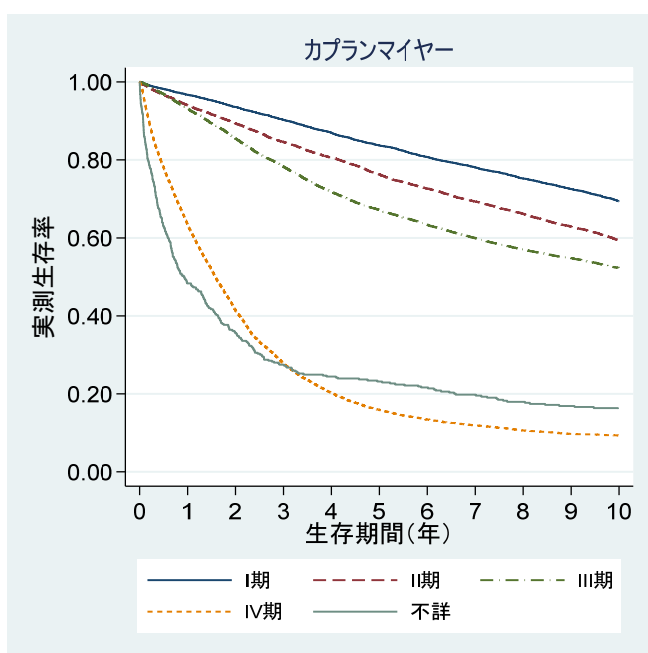
	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	16,640	100.0	11,771	100.0	28,411	100.0
拠点病院等	16,409	98.6	11,580	98.4	27,989	98.5
都道府県推薦病院	231	1.4	191	1.6	422	1.5
年齢						
平均年齢 (SD)	68.1	10.9	69.5	12.3	68.7	11.5
0-14 歳	(1-3)		0	0.0	(1-3)	
15-39 歳	222	1.3	203	1.7	425	1.5
40 歳代	631	3.8	521	4.4	1,152	4.1
50 歳代	2,623	15.8	1,782	15.1	4,405	15.5
60 歳代	5,119	30.8	2,945	25.0	8,064	28.4
70 歳代	5,693	34.2	3,708	31.5	9,401	33.1
80 歳以上	2,351	14.1	2,612	22.2	4,963	17.5
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	4,459	26.8	2,816	23.9	7,275	25.6
II 期	4,481	26.9	3,160	26.8	7,641	26.9
III 期	4,157	25.0	3,195	27.1	7,352	25.9
IV 期	3,309	19.9	2,420	20.6	5,729	20.2
不詳	234	1.4	180	1.5	414	1.5
観血的治療						
有	14,659	88.1	10,346	87.9	25,005	88.0
原発巣・治癒切除	12,655	76.1	8,855	75.2	21,510	75.7
原発巣・非治癒切除	1,481	8.9	1,126	9.6	2,607	9.2
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	523	3.1	365	3.1	888	3.1
無	1,981	11.9	1,425	12.1	3,406	12.0
発見経緯						
がん検診	1,617	9.7	1,203	10.2	2,820	9.9
健康診断・人間ドック	1,415	8.5	774	6.6	2,189	7.7
他疾患経過観察中	4,092	24.6	2,540	21.6	6,632	23.3
その他・不明	9,516	57.2	7,254	61.6	16,770	59.0

(3)10年生存率

10年生存率を表3-3①-2に示す。10年相対生存率は、男女ともほぼ同様であり全体では約67%であった。他の部位と同様、年代が高くなるほど、実測生存率と相対生存率の差が大きくなるが、これは高齢者ほど他疾患で亡くなる例が少ないためと考えられる。UICC TNM 分類総合ステージ別に相対生存率をみると、I期では約94%、II期では約84%であった。観血的治療を受けたものは、相対生存率は74.9%であり、原発巣・治癒切除例においては81.8%であった。

表3-3①-2 属性別10年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	46.7	66.2	65.1	67.3	53.6	68.6	67.4	69.7	49.5	67.2	66.4	68.0
拠点病院等	46.6	66.1	65.0	67.1	53.5	68.5	67.3	69.7	49.5	67.1	66.3	67.9
都道府県推薦病院	53.7	75.9	66.5	84.7	57.0	72.4	63.0	81.0	55.2	74.3	67.7	80.5
年齢												
15-39歳	67.7	68.5	61.7	74.4	63.4	63.8	56.6	70.1	65.6	66.2	61.3	70.6
40歳代	63.3	65.3	61.2	69.1	61.6	62.6	58.2	66.7	62.5	64.0	61.1	66.9
50歳代	62.3	67.6	65.5	69.6	67.7	70.1	67.8	72.3	64.5	68.6	67.1	70.1
60歳代	56.6	67.6	66.0	69.3	66.1	71.3	69.4	73.2	60.1	69.0	67.8	70.3
70歳代	40.6	66.4	64.3	68.5	53.6	69.0	66.9	71.1	45.7	67.5	66.0	69.0
80歳以上	15.3	60.2	54.5	66.3	26.7	67.2	62.8	71.6	21.3	64.5	61.0	68.1
UICC TNM 総合ステージ												
I期	65.1	92.0	89.9	93.9	76.1	96.0	93.9	97.9	69.4	93.6	92.1	95.0
II期	55.6	81.8	79.6	83.9	64.8	86.8	84.5	89.0	59.4	83.9	82.3	85.5
III期	48.6	67.3	65.2	69.5	57.2	71.9	69.7	74.1	52.3	69.4	67.8	70.9
IV期	8.9	11.6	10.4	13.0	9.9	11.6	10.3	13.1	9.3	11.6	10.7	12.6
不詳	18.2	28.4	20.9	36.7	13.6	19.2	12.7	27.1	16.2	24.4	19.2	30.1
観血的治療												
有	52.0	73.6	72.5	74.8	60.0	76.6	75.3	77.8	55.3	74.9	74.1	75.7
原発巣・治癒切除	56.6	80.3	79.1	81.6	65.5	83.7	82.4	85.0	60.3	81.8	80.9	82.7
原発巣・非治癒切除	16.6	22.5	20.0	25.2	20.1	25.3	22.3	28.3	18.1	23.7	21.8	25.7
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	40.3	56.6	50.5	62.6	46.3	59.1	52.3	65.6	42.7	57.6	53.1	62.1
無	6.6	9.4	7.9	11.1	6.1	8.1	6.5	9.9	6.4	8.9	7.7	10.1



結腸癌

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	生存状況把握割合 (%)	平均年齢
2008	239	18,245	9,108	96.2	69.9
I 期	239	4,622	1,441	96.1	69.2
II 期	239	5,233	2,111	95.9	71.2
III 期	238	4,352	1,980	95.7	69.6
IV 期	238	3,785	3,366	97.3	68.8

(1) 生存状況把握割合

対象数は、18,245 例、うち死亡数が 9,108 例、打ち切り数が 692 例で生存状況把握割合は 96.2%であった。

(2) 対象者の属性

男性が約 55%、女性が約 45%を占め、平均年齢は、69.9 歳であった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I～III 期が約 25%前後であった。約 89%になんらかの観血的治療が実施されていた。

表 3-3②-1 結腸 対象者の属性

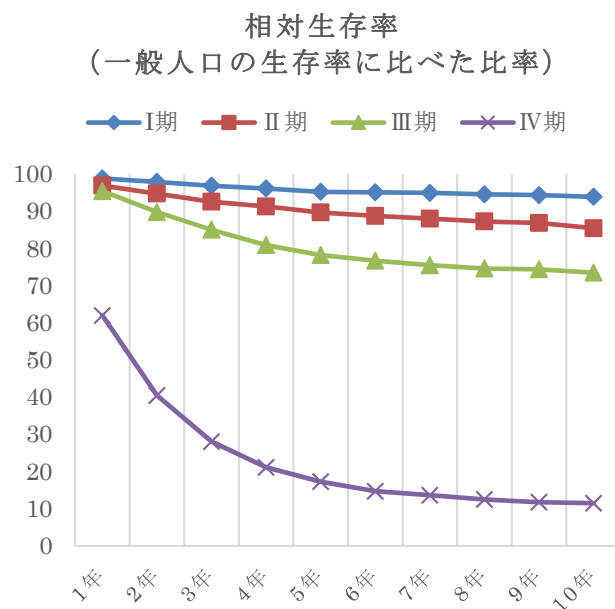
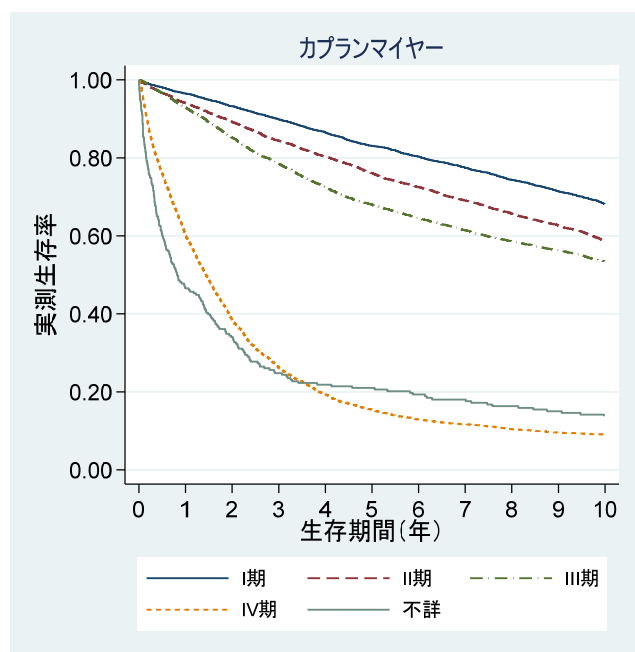
	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	10,053	100.0	8,192	100.0	18,245	100.0
拠点病院等	9,903	98.5	8,053	98.3	17,956	98.4
都道府県推薦病院	150	1.5	139	1.7	289	1.6
年齢						
平均年齢 (SD)	69.4	10.7	70.5	12.1	69.9	11.4
0-14 歳	(1-3)		0	0.0	(1-3)	
15-39 歳	119	1.2	122	1.5	241	1.3
40 歳代	314	3.1	303	3.7	617	3.4
50 歳代	1,311	13.0	1,097	13.4	2,408	13.2
60 歳代	2,900	28.8	1,955	23.9	4,855	26.6
70 歳代	3,711	36.9	2,715	33.1	6,426	35.2
80 歳以上	1,697	16.9	2,000	24.4	3,697	20.3
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	2,797	27.8	1,825	22.3	4,622	25.3
II 期	2,838	28.2	2,395	29.2	5,233	28.7
III 期	2,247	22.4	2,105	25.7	4,352	23.9
IV 期	2,035	20.2	1,750	21.4	3,785	20.7
不詳	136	1.4	117	1.4	253	1.4
観血的治療						
有	8,941	88.9	7,221	88.1	16,162	88.6
原発巣・治癒切除	7,712	76.7	6,146	75.0	13,858	76.0
原発巣・非治癒切除	932	9.3	827	10.1	1,759	9.6
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	297	3.0	248	3.0	545	3.0
無	1,112	11.1	971	11.9	2,083	11.4
発見経緯						
がん検診	1,015	10.1	886	10.8	1,901	10.4
健康診断・人間ドック	912	9.1	571	7.0	1,483	8.1
他疾患経過観察中	2,903	28.9	1,987	24.3	4,890	26.8
その他・不明	5,223	52.0	4,748	58.0	9,971	54.7

(3)10年生存率

表 3-3②-1 結腸に、属性別 10 年実測生存率と相対生存率を示す。年齢が高くなるほど実測生存率と相対生存率の差に乖離が大きくなる傾向にあった。これは年齢が高いほどがん以外の死因で亡くなる確率が高くなることが影響していると考えられる。UICC TNM 分類総合ステージ別に見ると、I 期では相対生存率は 93.9%であった。

表 3-3②-1 結腸 属性別 10 年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	45.9	67.8	66.3	69.3	53.0	69.4	68.0	70.9	49.1	68.6	67.6	69.6
拠点病院等	45.8	67.6	66.2	69.1	53.0	69.5	68.0	70.9	49.0	68.5	67.5	69.5
都道府県推薦病院	54.2	79.2	67.0	90.4	52.0	68.6	57.1	79.1	53.1	74.0	65.7	81.8
年齢												
15-39 歳	67.8	68.6	59.1	76.4	62.1	62.5	53.1	70.6	64.9	65.5	58.9	71.3
40 歳代	62.7	64.6	58.7	69.9	63.3	64.3	58.5	69.6	62.9	64.4	60.3	68.2
50 歳代	63.2	68.6	65.7	71.4	67.5	69.9	66.9	72.7	65.2	69.2	67.1	71.2
60 歳代	58.5	70.1	68.0	72.3	66.7	72.0	69.7	74.2	61.8	70.9	69.3	72.5
70 歳代	41.6	68.4	65.7	71.0	53.9	69.7	67.2	72.1	46.8	69.0	67.1	70.8
80 歳以上	15.4	60.8	54.0	67.9	27.4	69.5	64.4	74.6	21.9	66.3	62.2	70.5
UICC TNM 総合ステージ												
I 期	63.2	91.7	89.1	94.3	75.8	97.1	94.5	99.5	68.2	93.9	92.0	95.8
II 期	54.2	83.3	80.4	86.2	64.1	87.8	85.1	90.4	58.7	85.5	83.5	87.4
III 期	49.4	72.1	69.0	75.1	57.9	74.9	72.1	77.7	53.5	73.5	71.4	75.6
IV 期	8.5	11.3	9.8	13.1	9.8	11.7	10.1	13.5	9.1	11.5	10.4	12.7
不詳	15.5	26.6	16.9	38.4	11.9	18.0	10.1	28.3	13.8	22.5	15.9	30.2
観血的治療												
有	50.9	75.1	73.5	76.6	59.2	77.4	75.9	78.9	54.6	76.2	75.1	77.3
原発巣・治癒切除	55.4	81.9	80.2	83.6	65.1	85.3	83.7	86.8	59.7	83.5	82.3	84.6
原発巣・非治癒切除	16.6	23.2	19.9	26.7	19.3	24.2	20.9	27.8	17.8	23.7	21.4	26.2
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	41.2	60.0	51.7	68.2	44.0	57.3	49.0	65.3	42.5	58.7	52.8	64.5
無	5.1	7.7	5.9	9.9	5.3	7.4	5.5	9.6	5.2	7.6	6.2	9.1



直腸癌

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	生存状況把握割合 (%)	平均年齢
2008	239	10,166	4,961	96.5	66.5
I 期	238	2,653	744	96.1	66.6
II 期	239	2,408	924	96.0	67.6
III 期	238	3,000	1,460	96.9	65.9
IV 期	236	1,944	1,708	96.9	65.1

(1) 生存状況把握割合

対象数は、10,166 例、うち死亡数が 4,961 例、打ち切り数が 360 例で生存状況把握割合は 96.5%であった。

(2) 対象者の属性

男性が約 65%、女性が約 35%を占め、平均年齢は、66.5 歳であった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、III 期が約 30%であった。87.0%になんらかの観血的治療が実施されていた。

表 3-3③-1 直腸 対象者の属性

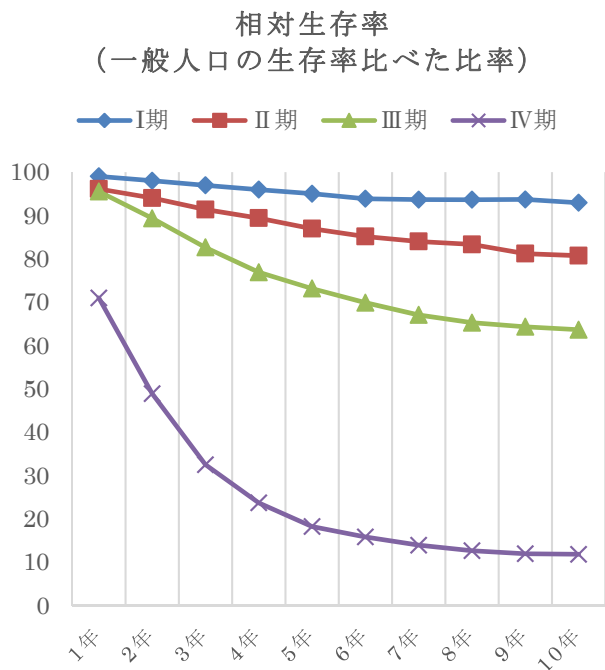
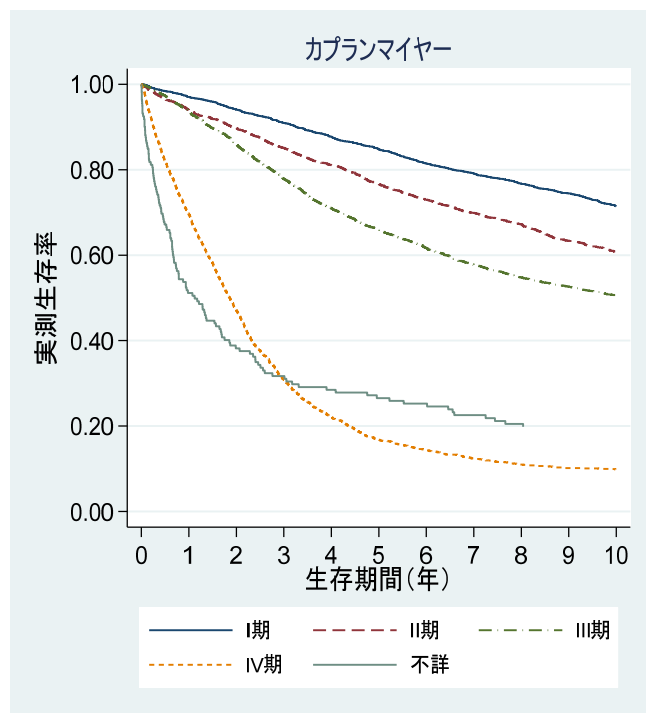
	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	6,587	100.0	3,579	100.0	10,166	100.0
拠点病院等	6,506	98.8	3,527	98.5	10,033	98.7
都道府県推薦病院	81	1.2	52	1.5	133	1.3
年齢						
平均年齢 (SD)	66.1	10.8	67.1	12.5	66.5	11.4
15-39 歳	103	1.6	81	2.3	184	1.8
40 歳代	317	4.8	218	6.1	535	5.3
50 歳代	1,312	19.9	685	19.1	1,997	19.6
60 歳代	2,219	33.7	990	27.7	3,209	31.6
70 歳代	1,982	30.1	993	27.7	2,975	29.3
80 歳以上	654	9.9	612	17.1	1,266	12.5
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	1,662	25.2	991	27.7	2,653	26.1
II 期	1,643	24.9	765	21.4	2,408	23.7
III 期	1,910	29.0	1,090	30.5	3,000	29.5
IV 期	1,274	19.3	670	18.7	1,944	19.1
不詳	98	1.5	63	1.8	161	1.6
観血的治療						
有	5,718	86.8	3,125	87.3	8,843	87.0
原発巣・治癒切除	4,943	75.0	2,709	75.7	7,652	75.3
原発巣・非治癒切除	549	8.3	299	8.4	848	8.3
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	226	3.4	117	3.3	343	3.4
無	869	13.2	454	12.7	1,323	13.0
発見経緯						
がん検診	602	9.1	317	8.9	919	9.0
健康診断・人間ドック	503	7.6	203	5.7	706	6.9
他疾患経過観察中	1,189	18.1	553	15.5	1,742	17.1
その他・不明	4,293	65.2	2,506	70.0	6,799	66.9

(3)10年生存率

表 3-3③-1 直腸に、属性別 10 年実測生存率と相対生存率を示す。70 歳以上では実測生存率と相対生存率の差に乖離が大きくなる傾向にあった。これは年齢が高いほどがん以外の死因で亡くなる確率が高くなることが影響していると考えられる。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、全体では I 期の相対性生存率は 92.9%であった。

表 3-3③-1 直腸 属性別 10 年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	47.8	63.9	62.2	65.5	55.0	66.8	64.7	68.7	50.3	64.9	63.6	66.2
拠点病院等	47.8	63.8	62.1	65.4	54.7	66.5	64.5	68.5	50.2	64.8	63.5	66.0
都道府県推薦病院	53.0	69.8	54.7	83.2	70.5	82.5	65.4	94.9	59.7	74.7	63.5	84.4
年齢												
15-39 歳	67.4	68.2	57.8	76.7	65.1	65.6	54.0	75.0	66.5	67.1	59.6	73.6
40 歳代	64.0	66.0	60.2	71.2	59.2	60.2	53.2	66.5	62.0	63.6	59.2	67.7
50 歳代	61.4	66.6	63.6	69.4	68.1	70.5	66.7	74.0	63.7	67.9	65.6	70.1
60 歳代	54.0	64.4	61.9	66.8	65.0	70.0	66.7	73.2	57.4	66.2	64.2	68.1
70 歳代	38.8	62.8	59.3	66.3	52.5	67.2	63.1	71.2	43.3	64.3	61.6	67.0
80 歳以上	15.3	58.8	48.3	70.2	24.2	59.7	51.3	68.5	19.6	59.4	52.7	66.4
UICC TNM 総合ステージ												
I 期	68.3	92.3	89.2	95.3	76.7	94.0	90.6	97.1	71.4	92.9	90.6	95.2
II 期	57.9	79.2	75.8	82.4	67.0	83.9	79.5	88.0	60.8	80.7	78.1	83.3
III 期	47.6	62.1	59.1	65.0	55.9	66.3	62.7	69.7	50.6	63.7	61.4	65.9
IV 期	9.7	12.1	10.2	14.3	10.2	11.5	9.0	14.4	9.9	11.9	10.3	13.6
不詳	21.9	30.9	20.0	43.5	16.8	20.8	10.7	33.6	20.0	27.1	19.1	36.2
観血的治療												
有	53.7	71.5	69.8	73.3	61.7	74.7	72.6	76.8	56.5	72.7	71.4	74.0
原発巣・治癒切除	58.4	77.9	76.1	79.8	66.4	80.3	78.1	82.4	61.2	78.8	77.4	80.2
原発巣・非治癒切除	16.6	21.5	17.6	25.7	22.2	28.0	22.2	34.2	18.5	23.8	20.5	27.3
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	39.1	52.5	43.8	61.1	51.2	62.8	51.0	73.6	43.1	56.1	49.1	62.9
無	8.5	11.5	9.1	14.3	7.9	9.5	6.8	12.9	8.3	10.9	9.0	12.9



4. 肝細胞癌と肝内胆管癌

肝細胞癌

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	生存状況把握割合 (%)	平均年齢
2008	237	10,794	5,526	96.9	69.6
I期	229	4,357	3,201	96.7	70.0
II期	232	3,420	2,862	96.9	69.5
III期	231	2,161	1,963	97.1	69.0
IV期	203	573	551	97.6	68.1

(1) 生存状況把握割合

対象者は、10,794例で、そのうち10年以内に死亡していたのは5,526例、打ち切りが337例であった。全体として、生存状況把握割合は96.9%であった。

男性が約70%を占めた。年代をみると、70歳代が最も多く男性で約40%、女性は約48%を占めた。UICC TNM総合ステージ別にみると、全体でI期が約40%、II期が約32%、III期が約20%となっていた。23.3%に観血的治療が実施されていた。発見経緯としては、他疾患経過観察中が63.8%を占めた。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表3-4①-1に示す。性別にみると、

表3-4①-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	7,512	100.0	3,282	100.0	10,794	100.0
拠点病院等	7,434	99.0	3,247	98.9	10,681	99.0
都道府県推薦病院	78	1.0	35	1.1	113	1.0
年齢						
平均年齢 (SD)	68.4	9.7	72.2	8.8	69.6	9.6
0-14歳	0	0.0	(1-3)	(1-3)	(1-3)	(1-3)
15-39歳	45	0.6	12	0.4	57	0.5
40歳代	200	2.7	34	1.0	234	2.2
50歳代	1,184	15.8	218	6.6	1,402	13.0
60歳代	2,274	30.3	816	24.9	3,090	28.6
70歳代	2,990	39.8	1,590	48.4	4,580	42.4
80歳以上	819	10.9	611	18.6	1,430	13.2
UICC TNM分類総合ステージ						
I期	2,821	37.6	1,536	46.8	4,357	40.4
II期	2,335	31.1	1,085	33.1	3,420	31.7
III期	1,706	22.7	455	13.9	2,161	20.0
IV期	457	6.1	116	3.5	573	5.3
不詳	193	2.6	90	2.7	283	2.6
取扱い規約治療前ステージ						
I期	1,640	21.8	952	29.0	2,592	24.0
II期	2,577	34.3	1,222	37.2	3,799	35.2
III期	1,715	22.8	652	19.9	2,367	21.9
IV期	1,210	16.1	309	9.4	1,519	14.1
不詳	296	3.9	109	3.3	405	3.8
空欄他	74	1.0	38	1.2	112	1.0
観血的治療						
有	1,884	25.1	632	19.3	2,516	23.3
原発巣・治癒切除	1,680	22.4	563	17.2	2,243	20.8
原発巣・非治癒切除	108	1.4	39	1.2	147	1.4
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	96	1.3	30	0.9	126	1.2
無	5,628	74.9	2,650	80.7	8,278	76.7
発見経緯						
がん検診	59	0.8	23	0.7	82	0.8
健康診断・人間ドック	276	3.7	52	1.6	328	3.0
他疾患経過観察中	4,627	61.6	2,257	68.8	6,884	63.8
その他・不明	2,550	33.9	950	28.9	3,500	32.4

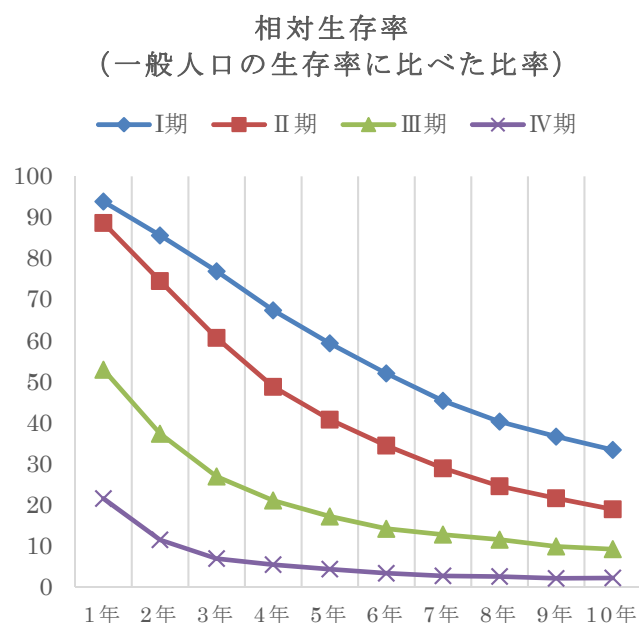
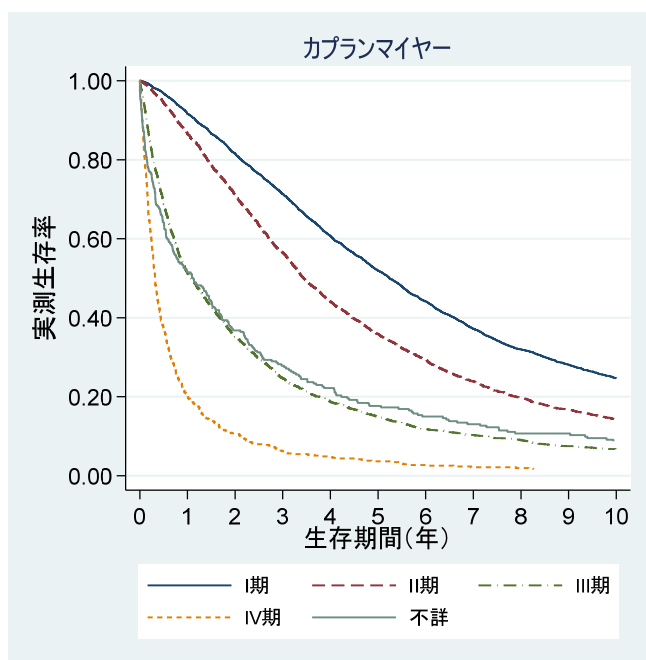
取扱い規約治療前ステージが0期の者を若干名含む

(3)10年生存率

10年生存率を表3-4①-2に示す。全体として、相対生存率は男女ともに約20～23%であった。他の部位と比較して、80歳以上を除き年代による実測生存率と相対生存率の差はやや小さくなっており、予後があまり良くないことを示唆している。UICC TNM 分類別にみると、I期では相対生存率は全体で約33%である。観血的治療を受けたものの割合は約2割であるが、観血的治療を受けたものの相対生存率は約46%であった。

表3-4①-2 属性別10年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	16.3	22.8	21.7	24.0	15.7	19.6	18.0	21.2	16.2	21.8	20.8	22.7
拠点病院等	16.4	23.0	21.8	24.2	15.7	19.5	18.0	21.2	16.2	21.9	20.9	22.8
都道府県推薦病院	9.0	12.3	5.4	22.6	17.1	21.4	8.7	38.8	11.5	15.2	8.5	24.0
年齢												
15-39歳	23.9	24.2	12.6	37.9	-	-			31.0	31.4	19.5	44.0
40歳代	34.6	35.7	28.9	42.7	34.1	34.7	19.0	51.1	34.5	35.6	29.2	42.0
50歳代	24.0	26.1	23.4	28.8	41.1	42.6	35.7	49.4	26.7	28.7	26.2	31.3
60歳代	20.7	24.8	22.8	26.9	23.8	25.8	22.6	29.1	21.5	25.1	23.4	26.8
70歳代	11.8	19.2	17.4	21.2	11.7	14.9	12.9	17.1	11.7	17.6	16.2	19.1
80歳以上	4.8	17.0	12.2	23.0	3.9	8.9	5.7	13.1	4.5	13.0	10.0	16.5
UICC TNM 総合ステージ												
I期	26.7	37.7	35.3	40.0	20.8	25.9	23.3	28.5	24.7	33.4	31.6	35.1
II期	14.2	19.6	17.6	21.6	14.2	17.6	15.0	20.3	14.2	18.9	17.3	20.5
III期	6.9	9.6	7.9	11.4	6.3	7.9	5.4	11.1	6.8	9.2	7.8	10.8
IV期	1.2	1.7	0.6	3.6	3.3	4.3	1.3	10.5	1.6	2.2	1.1	4.1
不詳	8.0	10.9	6.3	17.1	10.4	13.4	6.5	23.1	8.8	11.7	7.7	16.8
取扱い規約治療前ステージ												
I期	26.3	36.4	33.4	39.5	22.5	27.6	24.3	31.0	24.9	33.0	30.8	35.3
II期	20.9	29.4	27.2	31.7	17.6	22.0	19.4	24.8	19.8	27.0	25.2	28.8
III期	9.5	13.3	11.4	15.3	8.8	10.9	8.3	13.9	9.3	12.6	11.0	14.3
IV期	3.2	4.4	3.2	6.0	2.9	3.6	1.7	6.7	3.2	4.3	3.2	5.6
不詳	13.3	18.2	13.2	24.0	11.3	15.1	8.2	24.4	12.8	17.3	13.1	22.1
観血的治療												
有	34.3	46.4	43.4	49.3	37.2	44.2	39.6	48.7	35.1	45.8	43.3	48.2
原発巣・治癒切除	36.2	49.0	45.8	52.1	38.5	45.8	41.0	50.7	36.8	48.1	45.5	50.8
原発巣・非治癒切除	11.6	15.2	8.3	24.3	13.3	15.1	5.5	29.6	12.1	15.2	9.2	22.7
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	27.4	35.3	24.3	47.1	43.7	50.0	28.8	69.7	31.2	38.8	28.9	49.1
無	10.2	14.6	13.5	15.8	10.5	13.3	11.9	14.9	10.3	14.1	13.2	15.1



肝内胆管癌

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	生存状況把握割合 (%)	平均年齢
2008	231	1,249	1,119	97.2	69.0
I 期	97	155	116	97.4	70.7
II 期	91	142	107	96.5	68.7
III 期	182	489	447	97.1	69.3
IV 期	169	390	381	97.7	67.7

(1) 生存状況把握割合

対象者は、1,249 例で、そのうち 10 年以内に死亡していたのは 1,119 例、打ち切りが 35 例であった。全体として、生存状況把握割合は 97.2%であった。

男性が約 60%を占めた。年代をみると、70 歳代が最も多く男性で約 39%、女性は約 36%を占めた。UICC TNM 総合ステージ別にみると、全体で I 期が約 12%、II 期が約 11%、III 期が約 39%、IV 期が約 31%であった。31.8%に観血的治療が実施されていた。発見経緯としては、他疾患経過観察中が約 34%を占めた。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-4②-1 に示す。性別にみると、

表 3-4②-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	750	100.0	499	100.0	1,249	100.0
拠点病院等	745	99.3	495	99.2	1,240	99.3
都道府県推薦病院	(4-6)		(4-6)		(7-9)	
年齢						
平均年齢 (SD)	69.0	10.2	69.1	11.8	69.0	10.8
15-39 歳	(4-6)		12	2.4	17	1.4
40 歳代	24	3.2	17	3.4	41	3.3
50 歳代	110	14.7	69	13.8	179	14.3
60 歳代	216	28.8	129	25.9	345	27.6
70 歳代	295	39.3	181	36.3	476	38.1
80 歳以上	100	13.3	91	18.2	191	15.3
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	94	12.5	61	12.2	155	12.4
II 期	91	12.1	51	10.2	142	11.4
III 期	288	38.4	201	40.3	489	39.2
IV 期	232	30.9	158	31.7	390	31.2
不詳	45	6.0	28	5.6	73	5.8
取扱い規約治療前ステージ						
I 期	49	6.5	29	5.8	78	6.2
II 期	108	14.4	79	15.8	187	15.0
III 期	124	16.5	90	18.0	214	17.1
IV 期	381	50.8	244	48.9	625	50.0
不詳	61	8.1	41	8.2	102	8.2
空欄	27	3.6	16	3.2	43	3.4
観血的治療						
有	241	32.1	156	31.3	397	31.8
原発巣・治癒切除	189	25.2	123	24.6	312	25.0
原発巣・非治癒切除	35	4.7	26	5.2	61	4.9
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	17	2.3	(7-9)		24	1.9
無	509	67.9	343	68.7	852	68.2
発見経緯						
がん検診	(4-6)		(7-9)		13	1.0
健康診断・人間ドック	59	7.9	19	3.8	78	6.2
他疾患経過観察中	269	35.9	152	30.5	421	33.7
その他・不明	417	55.6	320	64.1	737	59.0

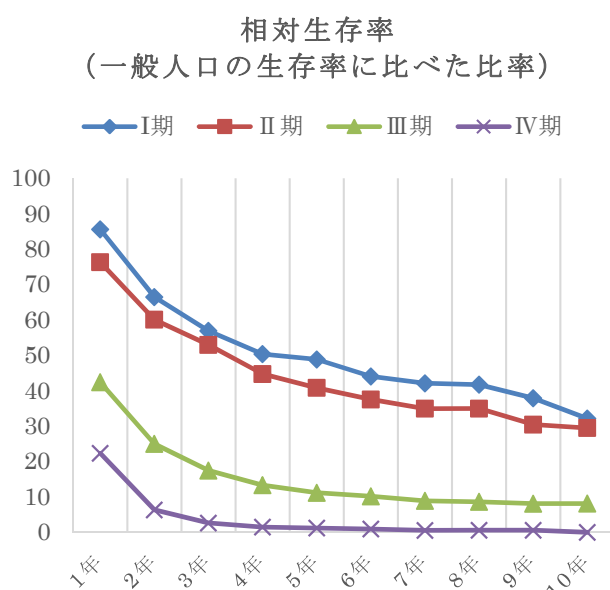
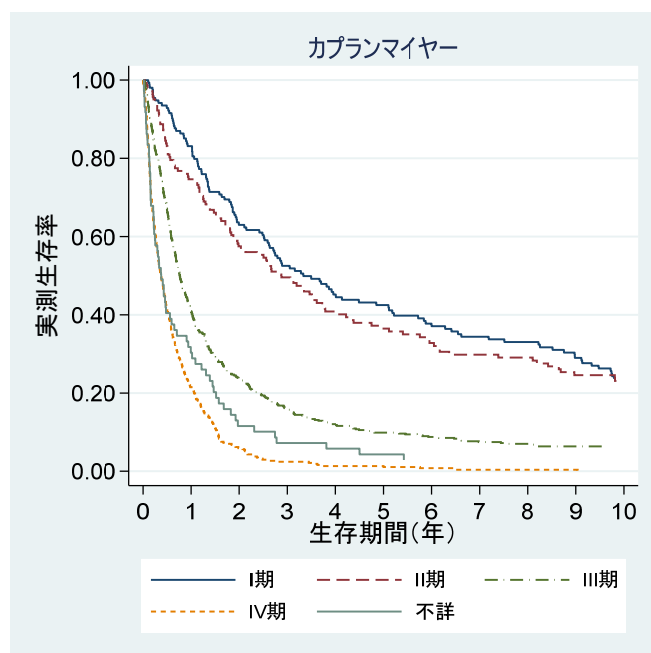
取扱い規約治療前ステージが 0 期の者を若干名含む

(3)10年生存率

10年生存率を表3-4②-2に示す。全体として、相対生存率は全体で約11%であった。UICC TNM分類別にみると、I期では相対生存率は全体で約32%である。観血的治療を受けたものの割合は約3割であるが、観血的治療を受けたものの相対生存率は約31%であった。

表3-4②-2 属性別10年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	7.4	10.3	7.8	13.2	9.6	11.8	8.8	15.2	8.3	10.9	9.0	13.1
拠点病院等	7.4	10.3	7.8	13.2	9.7	11.9	8.9	15.3	8.3	11.0	9.0	13.1
都道府県推薦病院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢												
15-39歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	10.8	11.1	3.6	23.5
50歳代	12.6	13.8	7.7	21.7	12.8	13.2	6.4	22.7	12.7	13.5	8.7	19.4
60歳代	8.9	10.6	6.6	15.9	12.2	13.1	7.7	20.0	10.1	11.6	8.2	15.7
70歳代	6.4	10.5	6.4	15.8	8.8	11.2	6.7	17.1	7.3	10.8	7.6	14.6
80歳以上	1.3	4.4	0.4	20.7	2.4	6.1	1.2	19.1	1.9	5.5	1.5	14.5
UICC TNM 総合ステージ												
I期	16.7	24.2	14.3	36.2	34.4	43.2	28.4	58.3	23.6	32.1	23.4	41.7
II期	19.6	25.8	15.9	37.5	29.2	35.3	21.1	50.7	23.1	29.5	21.0	38.8
III期	7.0	9.9	6.1	14.9	5.1	6.0	3.1	10.4	6.2	8.1	5.6	11.4
IV期	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
不詳	2.5	2.9	0.2	13.1	3.8	5.0	0.4	21.5	3.0	3.7	0.7	11.6
取り扱い規約治療前ステージ												
I期	16.3	22.6	10.6	38.5	-	-	-	-	24.4	33.9	21.6	47.7
II期	17.5	25.2	15.7	36.5	31.4	36.9	25.1	49.2	23.1	30.6	22.8	39.0
III期	11.5	15.0	8.6	23.3	8.2	9.9	4.4	18.3	10.1	12.8	8.2	18.6
IV期	1.8	2.4	1.0	4.9	1.2	1.5	0.4	3.9	1.6	2.0	1.0	3.6
不詳	8.7	12.1	4.2	25.6	2.5	3.0	0.2	13.6	5.9	7.7	2.9	15.8
観血的治療												
有	21.2	28.9	22.1	36.4	28.1	33.7	25.5	42.4	24.0	31.0	25.6	36.6
原発巣・治癒切除	23.2	31.7	23.7	40.3	34.6	41.1	31.2	51.1	27.7	35.7	29.4	42.3
原発巣・非治癒切除	10.3	12.9	3.4	29.9	-	-	-	-	7.5	9.7	3.2	21.3
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無	0.6	0.9	0.3	2.6	1.0	1.3	0.4	3.5	0.8	1.1	0.5	2.3



5. 小細胞肺癌と非小細胞肺癌

小細胞肺癌

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	生存状況把握割合 (%)	平均年齢
2008	231	2,741	2,490	97.3	69.7
I 期	117	202	148	97.0	71.6
II 期	117	175	149	98.3	70.4
III 期	217	996	884	97.5	68.8
IV 期	225	1,330	1,275	97.1	69.8

(1) 生存状況把握割合

対象者は、2,741 例で、そのうち 10 年以内に死亡していた者は、2,490 例、打ち切りが 74 例で、全体として生存状況把握割合は 97.3%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-5①-1 に示す。対象者は、男性が 84.8%を占め、70 歳代が最も多かった。UICC

TNM分類総合ステージ別にみると、全体としてIV期が約 49%、次いでIII期が約 36%であった。病期分布は男女別にみてもほぼ同様であった。観血的治療実施を受けた者の割合は、非小細胞肺癌と比較して低く、約 9%であった。発見経緯をみると、他疾患経過観察中が約 29%であった。

表 3-5①-1 対象者の属性

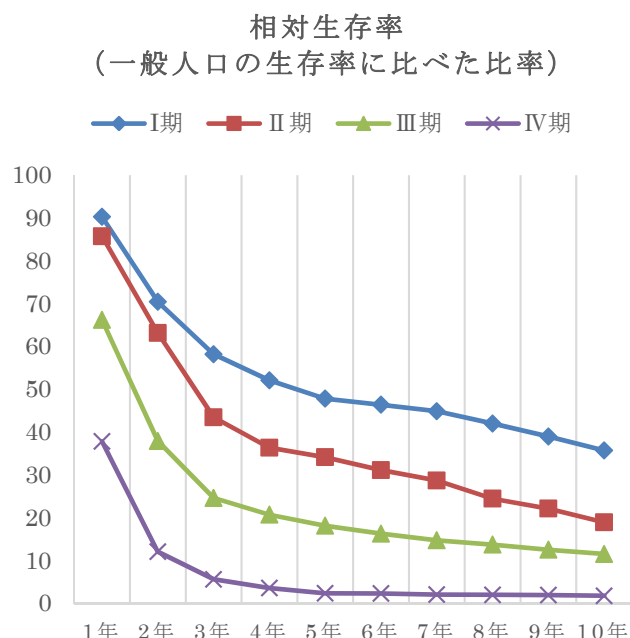
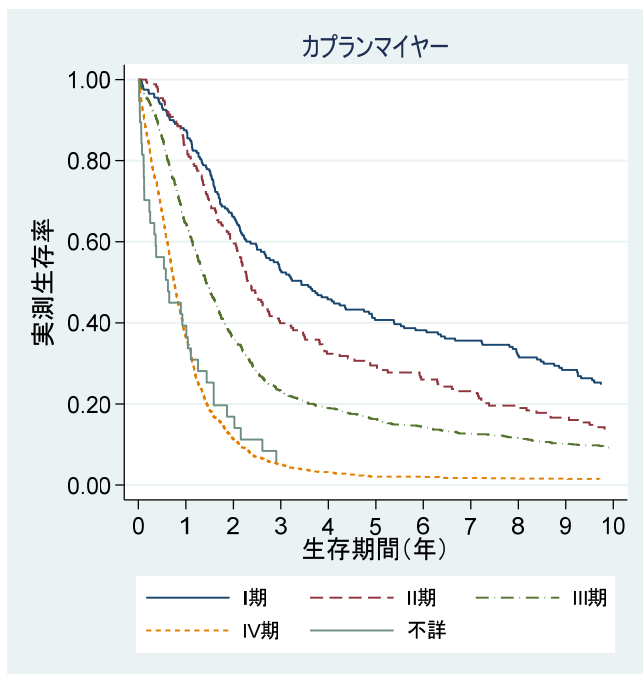
	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	2,299	100.0	442	100.0	2,741	100.0
拠点病院等	2,270	98.7	437	98.9	2,707	98.8
都道府県推薦病院	29	1.3	(4-6)		34	1.2
年齢						
平均年齢 (SD)	69.7	8.8	69.2	9.8	69.7	9.0
15-39 歳	(7-9)		(1-3)		10	0.4
40 歳代	26	1.1	13	2.9	39	1.4
50 歳代	263	11.4	51	11.5	314	11.5
60 歳代	742	32.3	139	31.4	881	32.1
70 歳代	962	41.8	184	41.6	1,146	41.8
80 歳以上	299	13.0	52	11.8	351	12.8
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	175	7.6	27	6.1	202	7.4
II 期	146	6.4	29	6.6	175	6.4
III 期	827	36.0	169	38.2	996	36.3
IV 期	1,121	48.8	209	47.3	1,330	48.5
不詳	30	1.3	(7-9)		38	1.4
観血的治療						
有	210	9.1	25	5.7	235	8.6
原発巣・治癒切除	171	7.4	19	4.3	190	6.9
原発巣・非治癒切除	26	1.1	(1-3)		28	1.0
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	13	0.6	(4-6)		17	0.6
無	2,089	90.9	417	94.3	2,506	91.4
発見経緯						
がん検診	97	4.2	17	3.8	114	4.2
健康診断・人間ドック	189	8.2	28	6.3	217	7.9
他疾患経過観察中	671	29.2	111	25.1	782	28.5
その他・不明	1,342	58.4	286	64.7	1,628	59.4

(3)10年生存率

10年生存率を表3-5①-2に示す。全体での10年相対生存率は、IV期が半数近くを占めることから低く約9%であった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I期では相対生存率が35.7%であった。観血的治療を受けた者の割合は少ないが、相対生存率は39.9%であった。

表 3-5①-2 属性別 10年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	6.5	8.8	7.4	10.2	9.2	10.5	7.6	13.9	6.9	9.1	7.8	10.4
拠点病院等	6.5	8.8	7.5	10.3	9.3	10.6	7.7	14.0	6.9	9.1	7.9	10.5
都道府県推薦病院	-	-	-	-	-	-	-	-	2.9	3.7	0.3	16.5
年齢												
15-39歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	8.3	8.5	2.2	20.3
50歳代	17.5	19.0	14.3	24.3	26.7	27.7	16.0	40.8	19.1	20.5	16.0	25.4
60歳代	7.0	8.3	6.3	10.7	9.4	10.2	5.7	16.3	7.4	8.6	6.7	10.8
70歳代	4.5	7.3	5.4	9.8	4.2	5.4	2.4	10.3	4.5	7.0	5.3	9.2
80歳以上	1.1	3.4	0.9	9.2	2.1	3.7	0.3	16.9	1.2	3.4	1.1	8.1
UICC TNM 総合ステージ												
I期	22.8	34.0	25.1	43.8	-	-	-	-	24.8	35.7	27.3	44.7
II期	12.9	18.6	11.6	27.4	-	-	-	-	13.7	18.9	12.5	26.7
III期	8.5	11.0	8.7	13.7	12.5	14.1	9.0	20.4	9.2	11.6	9.4	14.0
IV期	1.5	1.9	1.1	3.0	1.1	1.2	0.2	3.9	1.4	1.8	1.1	2.8
不詳	3.7	5.5	0.4	23.6	-	-	-	-	5.8	7.3	1.3	21.4
観血的治療												
有	25.8	38.1	29.5	47.2	-	-	-	-	27.9	39.9	31.8	48.4
原発巣・治癒切除	28.7	42.4	32.5	52.8	-	-	-	-	31.1	44.6	35.2	54.3
原発巣・非治癒切除	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無	4.5	5.8	4.7	7.1	6.9	7.8	5.3	11.0	4.9	6.2	5.2	7.4



非小細胞肺癌

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	生存状況把握割合 (%)	平均年齢
2008	239	26,889	19,493	96.9	69.4
I 期	234	10,227	4,585	96.9	69.5
II 期	228	1,903	1,365	96.5	69.6
III 期	237	6,848	5,979	97.0	69.4
IV 期	235	7,486	7,172	97.2	68.8

(1) 生存状況把握割合

対象者は、26,889 例で、そのうち 10 年以内に死亡していた者は、19,493 例、打ち切りが 823 例で、全体として生存状況把握割合は 96.9%であった。

TNM 分類総合ステージ別にみると、全体として I 期が約 38%、次いで IV 期が約 28%であった。病期分布に女性で I 期の割合が男性より多かった。観血的治療実施を受けた者の割合は、小細胞肺癌と比較して多く、45.1%であった。発見経緯をみると、他疾患経過観察中が約 34%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-5②-1 に示す。対象者は、男性が 68.6%を占め、70 歳代が最も多かった。UICC

表 3-5②-1 対象者の属性

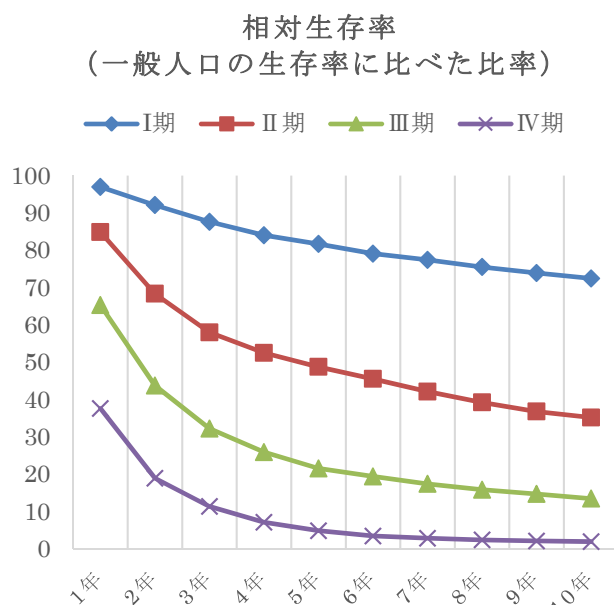
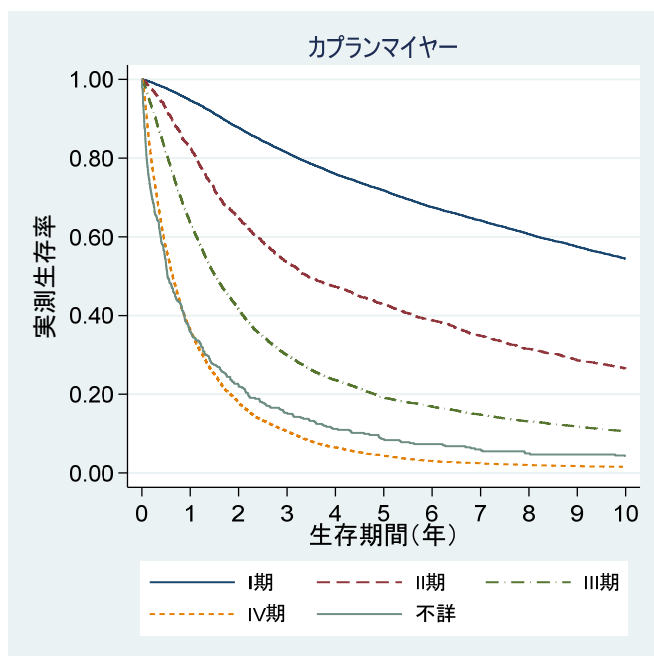
	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	18,449	100.0	8,440	100.0	26,889	100.0
拠点病院等	18,240	98.9	8,341	98.8	26,581	98.9
都道府県推薦病院	209	1.1	99	1.2	308	1.1
年齢						
平均年齢 (SD)	69.8	10.0	68.7	10.8	69.4	10.3
0-14 歳	(1-3)		(1-3)		(4-6)	
15-39 歳	142	0.8	77	0.9	219	0.8
40 歳代	486	2.6	301	3.6	787	2.9
50 歳代	2,247	12.2	1,275	15.1	3,522	13.1
60 歳代	5,395	29.2	2,509	29.7	7,904	29.4
70 歳代	7,209	39.1	2,942	34.9	10,151	37.8
80 歳以上	2,969	16.1	1,333	15.8	4,302	16.0
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	6,120	33.2	4,107	48.7	10,227	38.0
II 期	1,513	8.2	390	4.6	1,903	7.1
III 期	5,224	28.3	1,624	19.2	6,848	25.5
IV 期	5,278	28.6	2,208	26.2	7,486	27.8
不詳	314	1.7	111	1.3	425	1.6
観血的治療						
有	7,441	40.3	4,693	55.6	12,134	45.1
原発巣・治癒切除	6,624	35.9	4,292	50.9	10,916	40.6
原発巣・非治癒切除	416	2.3	168	2.0	584	2.2
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	401	2.2	233	2.8	634	2.4
無	11,008	59.7	3,747	44.4	14,755	54.9
発見経緯						
がん検診	1,337	7.2	896	10.6	2,233	8.3
健康診断・人間ドック	2,400	13.0	1,414	16.8	3,814	14.2
他疾患経過観察中	6,317	34.2	2,821	33.4	9,138	34.0
その他・不明	8,395	45.5	3,309	39.2	11,704	43.5

(3)10年生存率

10年生存率を表3-5②-2に示す。全体での10年相対生存率は、男性が27.4%、女性が49.0%と女性でやや高かった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみても、やや男性より女性で相対生存率が高い傾向にあった。観血的治療を受けた者(原発巣・治癒切除)では相対生存率は男性で61.0%、女性で83.2%となっていた。

表 3-5②-2 属性別 10年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	19.3	27.4	26.6	28.2	40.9	49.0	47.8	50.3	26.1	34.5	33.8	35.2
拠点病院等	19.3	27.4	26.6	28.2	40.8	49.0	47.7	50.3	26.1	34.4	33.7	35.1
都道府県推薦病院	19.3	29.2	21.5	37.7	44.0	54.9	42.4	66.8	27.2	37.6	30.9	44.6
年齢												
15-39歳	31.4	31.8	24.1	39.7	45.6	45.9	34.3	56.7	36.4	36.8	30.3	43.3
40歳代	35.6	36.7	32.3	41.2	51.2	52.1	46.1	57.7	41.6	42.6	39.0	46.2
50歳代	32.4	35.2	33.1	37.4	54.8	56.7	53.8	59.5	40.5	43.1	41.3	44.8
60歳代	26.2	31.4	29.9	32.8	48.8	52.6	50.5	54.7	33.4	38.2	37.0	39.4
70歳代	14.3	23.8	22.5	25.2	37.5	47.9	45.7	50.2	21.1	31.2	30.0	32.4
80歳以上	4.9	17.1	14.5	20.1	16.5	35.9	31.6	40.5	8.5	23.8	21.4	26.3
UICC TNM 総合ステージ												
I期	42.3	61.8	60.0	63.6	72.4	86.9	85.2	88.5	54.4	72.4	71.1	73.7
II期	23.9	32.9	29.9	35.9	36.8	43.8	38.0	49.6	26.5	35.2	32.6	37.9
III期	9.3	12.4	11.3	13.5	14.5	17.1	15.1	19.3	10.6	13.5	12.6	14.5
IV期	1.3	1.7	1.3	2.2	2.3	2.7	2.0	3.5	1.6	2.0	1.6	2.4
不詳	4.1	7.0	3.8	11.7	4.4	7.7	2.5	17.4	4.2	7.3	4.4	11.3
観血的治療												
有	41.9	58.5	56.9	60.0	68.5	80.7	79.1	82.2	52.2	67.4	66.3	68.6
原発巣・治癒切除	43.6	61.0	59.3	62.7	70.6	83.2	81.6	84.8	54.2	70.1	68.9	71.4
原発巣・非治癒切除	18.6	25.3	20.3	30.6	27.8	33.4	25.4	41.9	21.3	27.6	23.4	32.1
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	37.7	50.7	44.2	57.1	58.5	67.6	59.9	74.6	45.4	57.1	52.2	62.0
無	3.6	5.4	4.9	6.0	5.2	7.0	6.0	8.0	4.0	5.8	5.3	6.3



6. 女性乳癌

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	生存状況把握割合 (%)	平均年齢
2008	240	20,829	4,326	96.2	58.6
I 期	236	8,730	942	96.2	58.8
II 期	238	8,377	1,485	96.0	57.9
III 期	233	2,497	958	96.4	59.4
IV 期	220	1,050	879	97.4	58.9

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、20,829 例で、10 年以内に亡くなっていたのが 4,326 例、打ち切りが 796 例であった。集計対象全体での生存状況把握割合は 96.2%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-6-1 に示す。診断時の年齢をみると、50 歳代が最も多く、次いで 60、40 歳代であった。また、35 歳未満は、494 例であった(2.4%)。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I 期が最も多く約 42%、次いで II 期が約 40%であった。観血的治療の実施割合は、約 90%であった。発見経緯を見ると、大腸や肺と比較してがん検診がやや多かった。

表 3-6-1 対象者の属性

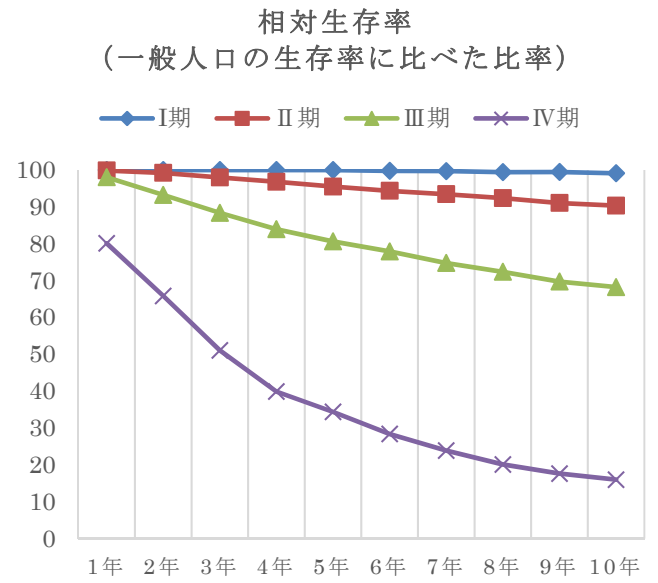
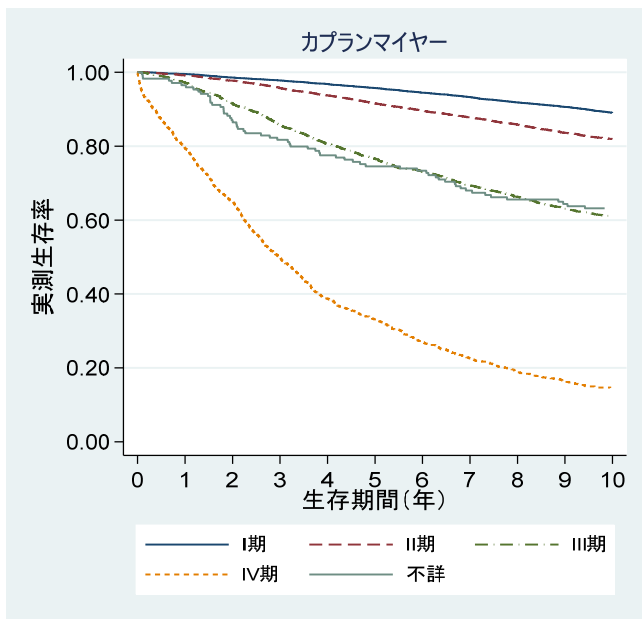
	対象数	(%)
全体	20,829	100.0
拠点病院等	20,596	98.9
都道府県推薦病院	233	1.1
年齢		
平均年齢 (SD)	58.5	13.2
15-39 歳	1,422	6.8
40 歳代	4,360	20.9
50 歳代	5,432	26.1
60 歳代	5,063	24.3
70 歳代	3,218	15.4
80 歳以上	1,334	6.4
35 歳未満 (再掲)	494	2.4
UICC TNM 分類総合ステージ		
I 期	8,730	41.9
II 期	8,377	40.2
III 期	2,497	12.0
IV 期	1,050	5.0
不詳	175	0.8
観血的治療		
有	18,757	90.1
原発巣・治癒切除	16,982	81.5
原発巣・非治癒切除	802	3.9
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	973	4.7
無	2,072	9.9
発見経緯		
がん検診	4,204	20.2
健康診断・人間ドック	1,059	5.1
他疾患経過観察中	2,091	10.0
その他・不明	13,475	64.7

(3) 10 年生存率

10 年生存率を表 3-6-2 に示す。全体として、相対生存率は 87.5%であった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I 期、II 期では相対生存率は 90%以上であるが、IV 期では約 16%にとどまった。なお、観血的治療実施を受けた者(原発巣・治癒切除)では、相対生存率は 93.2%を超えていた。

表 3-6-2 属性別 10 年相対生存率

	女性			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	78.9	87.5	86.9	88.2
拠点病院等	78.8	87.5	86.9	88.1
都道府県推薦病院	80.6	89.4	83.0	94.5
年齢				
15-39 歳	82.6	83.1	81.0	85.1
40 歳代	88.5	89.9	88.9	90.8
50 歳代	82.4	85.1	84.0	86.2
60 歳代	83.1	89.2	88.1	90.3
70 歳代	68.7	87.0	84.9	89.0
80 歳以上	36.7	90.3	83.8	96.9
35 歳未満 (再掲)	78.0	78.4	74.4	81.9
UICC TNM 総合ステージ				
I 期	89.0	99.1	98.4	99.9
II 期	81.9	90.4	89.4	91.3
III 期	60.9	68.3	66.0	70.4
IV 期	14.6	16.0	13.7	18.5
不詳	63.1	72.7	63.8	80.6
観血的治療				
有	83.3	92.2	91.6	92.8
原発巣・治癒切除	84.3	93.2	92.6	93.8
原発巣・非治癒切除	70.3	78.5	74.8	81.9
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	77.6	86.0	82.9	88.7
無	37.9	43.8	41.4	46.3



7. 食道癌

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	生存状況把握割合 (%)	平均年齢
2008	237	7,761	5,651	96.9	67.6
I 期	213	2,167	1,048	96.9	67.8
II 期	220	1,533	1,068	97.3	68.1
III 期	228	2,058	1,713	97.1	67.4
IV 期	220	1,740	1,609	96.5	66.9

(1) 生存状況把握割合

集計対象 7,761 例のうち、10 年以内に死亡していた者は 5,651 例、打ち切りが 241 例で、全体として生存状況把握割合は 96.9%であった。

が 86.0%を占めた。年齢をみると、60 歳代が 37.2%、次いで 70 歳代が 31.8%と多かった。UICC TNM 分類総合ステージをみると、III 期が 26.5%、IV 期が 22.4%であった。観血的治療は 44.8%に実施されていた。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-7-1 に示す。性別をみると、男性

表 3-7-1 対象者の属性

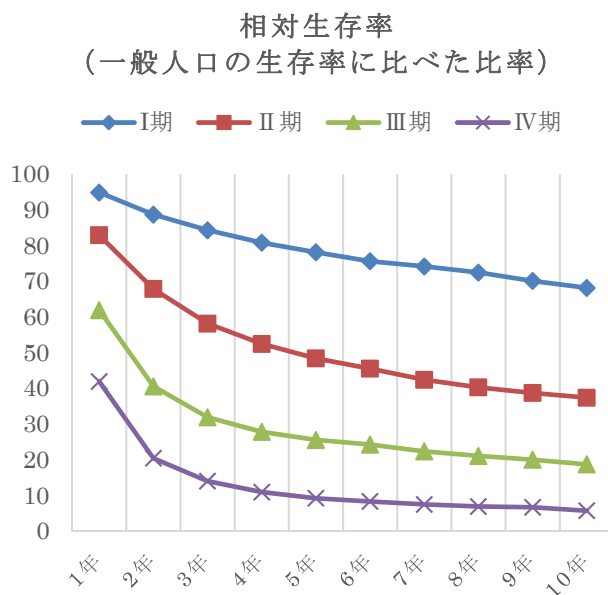
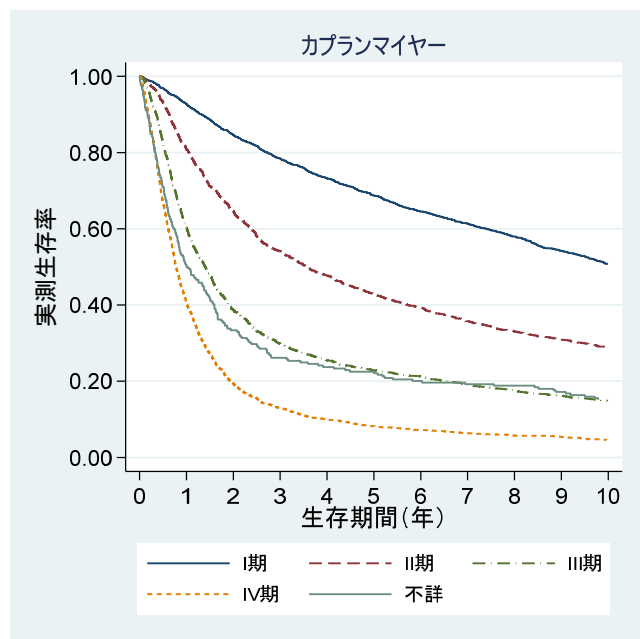
	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	6,676	100.0	1,085	100.0	7,761	100.0
拠点病院等	6,641	99.5	1,080	99.5	7,721	99.5
都道府県推薦病院	35	0.5	(4-6)		40	0.5
年齢						
平均年齢 (SD)	67.6	9.1	67.8	11.2	67.6	9.4
15-39 歳	14	0.2	(7-9)		21	0.3
40 歳代	142	2.1	52	4.8	194	2.5
50 歳代	1,150	17.2	196	18.1	1,346	17.3
60 歳代	2,538	38.0	348	32.1	2,886	37.2
70 歳代	2,158	32.3	307	28.3	2,465	31.8
80 歳以上	674	10.1	175	16.1	849	10.9
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	1,886	28.3	281	25.9	2,167	27.9
II 期	1,295	19.4	238	21.9	1,533	19.8
III 期	1,758	26.3	300	27.6	2,058	26.5
IV 期	1,528	22.9	212	19.5	1,740	22.4
不詳	209	3.1	54	5.0	263	3.4
観血的治療						
有	2,972	44.5	504	46.5	3,476	44.8
原発巣・治癒切除	2,483	37.2	437	40.3	2,920	37.6
原発巣・非治癒切除	292	4.4	38	3.5	330	4.3
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	197	3.0	29	2.7	226	2.9
無	3,704	55.5	581	53.5	4,285	55.2
発見経緯						
がん検診	312	4.7	34	3.1	346	4.5
健康診断・人間ドック	546	8.2	54	5.0	600	7.7
他疾患経過観察中	1,538	23.0	212	19.5	1,750	22.5
その他・不明	4,280	64.1	785	72.4	5,065	65.3

(3)10年生存率

10年生存率を表3-7-2に示す。相対生存率は、男性が32.1%、女性が42.0%であった。I期では、68.2%であるが、II期では37.4%であった。観血的治療を受けたものの相対生存率は、56.1%であった。

表3-7-2 属性別10年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	24.0	32.1	30.8	33.6	35.3	42.0	38.6	45.5	25.6	33.6	32.3	34.9
拠点病院等	24.0	32.1	30.8	33.6	35.4	42.1	38.7	45.5	25.6	33.6	32.3	34.9
都道府県推薦病院	21.8	31.8	14.4	53.7	-	-	-	-	21.5	30.7	14.7	50.5
年齢												
15-39歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳代	33.3	34.4	26.4	42.6	41.3	42.0	28.3	55.3	35.5	36.5	29.5	43.5
50歳代	32.7	35.5	32.6	38.5	45.9	47.5	40.1	54.6	34.6	37.3	34.5	40.1
60歳代	29.0	34.7	32.6	36.8	40.6	43.8	38.2	49.4	30.4	35.8	33.8	37.9
70歳代	18.1	28.8	26.2	31.5	33.6	42.8	36.0	49.6	20.0	30.7	28.3	33.2
80歳以上	6.2	22.2	16.1	29.7	11.5	26.6	16.3	39.7	7.2	23.2	17.8	29.6
UICC TNM 総合ステージ												
I期	48.6	66.3	63.1	69.3	65.5	80.6	73.2	87.2	50.8	68.2	65.3	71.0
II期	27.0	35.6	32.4	38.9	39.9	46.7	39.3	54.0	29.0	37.4	34.5	40.4
III期	12.8	16.7	14.7	18.9	26.6	29.9	24.4	35.7	14.9	18.8	16.8	20.8
IV期	4.4	5.6	4.4	7.1	5.9	6.9	3.7	11.6	4.6	5.8	4.6	7.2
不詳	14.9	20.9	14.5	28.5	17.5	21.5	10.7	35.4	15.4	21.0	15.3	27.6
観血的治療												
有	41.8	54.6	52.3	57.0	54.9	64.4	59.1	69.5	43.7	56.1	54.0	58.2
原発巣・治癒切除	44.8	58.6	56.0	61.2	57.3	67.4	61.7	72.8	46.7	60.0	57.6	62.3
原発巣・非治癒切除	21.5	28.2	22.2	34.7	38.0	45.2	27.0	63.2	23.4	30.3	24.5	36.4
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	34.1	43.2	34.8	51.8	-	-	-	-	34.9	43.4	35.6	51.3
無	9.4	13.3	12.0	14.7	18.0	21.8	18.0	25.8	10.6	14.5	13.2	15.8



8. 膵臓癌

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	生存状況把握割合 (%)	平均年齢
2008	237	7,533	6,979	97.2	69.5
I 期	181	475	344	96.4	71.1
II 期	220	1,614	1,418	97.1	70.2
III 期	222	1,419	1,338	97.3	69.0
IV 期	232	3,715	3,598	97.4	69.0

(1) 生存状況把握割合

集計対象 7,533 例のうち、10 年以内に死亡していた者は 6,979 例、打ち切りが 209 例で、全体として生存状況把握割合は 97.2%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-8-1 に示す。男性が 56.5%、女性が 43.5%であった。年代は、70 歳以上が最も多く 36.0%であった。UICC TNM 分類総合ステージをみると、IV 期が最も多く約半数を占めた。

表 3-8-1 対象者の属性

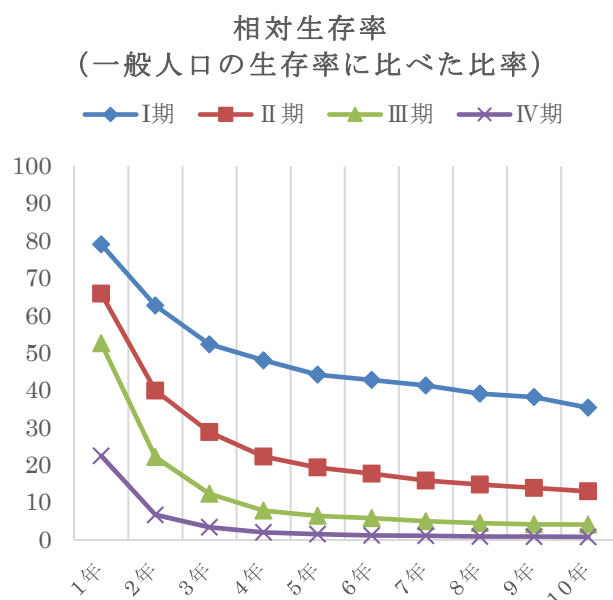
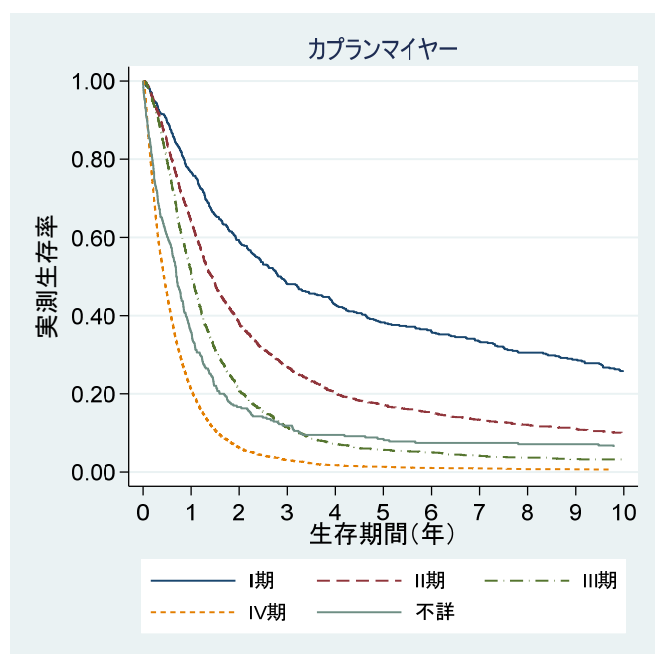
	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	4,253	100.0	3,280	100.0	7,533	100.0
拠点病院等	4,217	99.2	3,252	99.1	7,469	99.2
都道府県推薦病院	36	0.8	28	0.9	64	0.8
年齢						
平均年齢 (SD)	68.6	10.3	70.7	10.9	69.5	10.6
15-39 歳	29	0.7	22	0.7	51	0.7
40 歳代	129	3.0	96	2.9	225	3.0
50 歳代	680	16.0	397	12.1	1,077	14.3
60 歳代	1,311	30.8	862	26.3	2,173	28.8
70 歳代	1,509	35.5	1,203	36.7	2,712	36.0
80 歳以上	595	14.0	700	21.3	1,295	17.2
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	269	6.3	206	6.3	475	6.3
II 期	878	20.6	736	22.4	1,614	21.4
III 期	776	18.2	643	19.6	1,419	18.8
IV 期	2,141	50.3	1,574	48.0	3,715	49.3
不詳	189	4.4	121	3.7	310	4.1
観血的治療						
有	1,111	26.1	865	26.4	1,976	26.2
原発巣・治癒切除	843	19.8	659	20.1	1,502	19.9
原発巣・非治癒切除	187	4.4	135	4.1	322	4.3
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	81	1.9	71	2.2	152	2.0
無	3,142	73.9	2,415	73.6	5,557	73.8
発見経緯						
がん検診	45	1.1	40	1.2	85	1.1
健康診断・人間ドック	188	4.4	105	3.2	293	3.9
他疾患経過観察中	1,193	28.1	870	26.5	2,063	27.4
その他・不明	2,827	66.5	2,265	69.1	5,092	67.6

(3)10年生存率

10年生存率を表3-8-2に示す。全体で見ると、IV期が約半数を占めることから相対生存率は6.5%と低かった。UICC TNM分類総合ステージI期では、相対生存率は35.4%であった。

表3-8-2 属性別10年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	4.5	6.2	5.4	7.2	5.7	6.9	6.0	7.9	5.0	6.5	5.9	7.2
拠点病院等	4.5	6.3	5.4	7.2	5.7	6.9	6.0	8.0	5.1	6.6	5.9	7.3
都道府県推薦病院	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	1.6	1.9	0.2	9.0
年齢												
15-39歳	-	-	-	-	-	-	-	-	19.6	19.8	10.0	32.1
40歳代	8.7	9.0	4.7	15.0	14.6	14.8	8.6	22.7	11.2	11.4	7.6	16.1
50歳代	5.8	6.3	4.5	8.5	8.2	8.4	5.9	11.5	6.7	7.1	5.6	8.9
60歳代	5.9	7.1	5.6	8.8	8.0	8.7	6.8	10.8	6.8	7.7	6.6	9.0
70歳代	3.5	5.7	4.3	7.4	4.0	5.2	3.8	6.8	3.7	5.5	4.5	6.6
80歳以上	1.1	4.0	1.7	8.3	2.3	5.1	2.9	8.3	1.7	4.7	2.9	7.1
UICC TNM 総合ステージ												
I期	25.1	37.7	30.0	45.7	26.5	32.4	25.1	40.2	25.6	35.4	30.0	41.0
II期	9.1	12.4	9.9	15.2	11.2	13.6	10.9	16.6	10.1	13.0	11.1	15.0
III期	3.0	4.0	2.6	5.9	3.4	4.1	2.6	6.1	3.2	4.1	3.0	5.4
IV期	0.5	0.6	0.3	1.1	0.9	1.0	0.6	1.7	0.6	0.8	0.5	1.2
不詳	3.8	4.8	2.1	9.2	11.2	13.9	7.7	22.3	6.5	8.2	5.1	12.2
観血的治療												
有	14.8	20.2	17.4	23.1	18.4	21.8	18.7	25.0	16.3	20.9	18.8	23.1
原発巣・治癒切除	17.2	23.5	20.1	27.1	20.0	23.8	20.2	27.6	18.4	23.6	21.1	26.3
原発巣・非治癒切除	4.4	5.8	2.7	10.6	9.6	11.5	6.3	18.6	6.5	8.2	5.2	12.1
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	13.6	18.7	9.9	30.2	18.6	21.4	12.1	32.7	15.9	20.0	13.3	27.9
無	0.7	1.1	0.7	1.6	1.0	1.3	0.8	1.9	0.9	1.2	0.9	1.6



9. 子宮頸癌

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	生存状況把握割合 (%)	平均年齢
2008	218	4,541	1,551	93.9	54.3
I 期	197	1,986	234	92.0	48.4
II 期	163	820	290	94.4	59.2
III 期	166	1,050	523	95.9	57.5
IV 期	159	521	432	96.4	61.0

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、4,541 例で、10 年以内に亡くなっていたのが 1,551 例、打ち切りが 275 例であった。集計対象全体での生存状況把握割合は 93.9%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-9-1 に示す。年例を見ると、40 歳未満の若い世代が多い傾向にあった。UICC TNM 分類総合ステージをみると、I 期が最も多く 43.7%であった。

表 3-9-1 対象者の属性

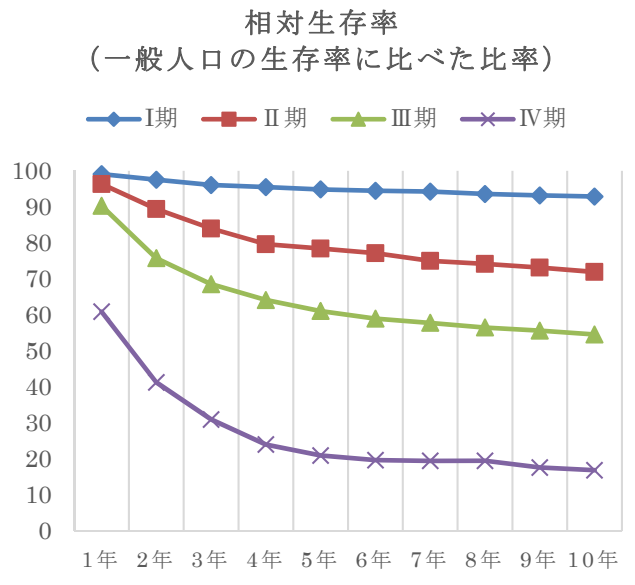
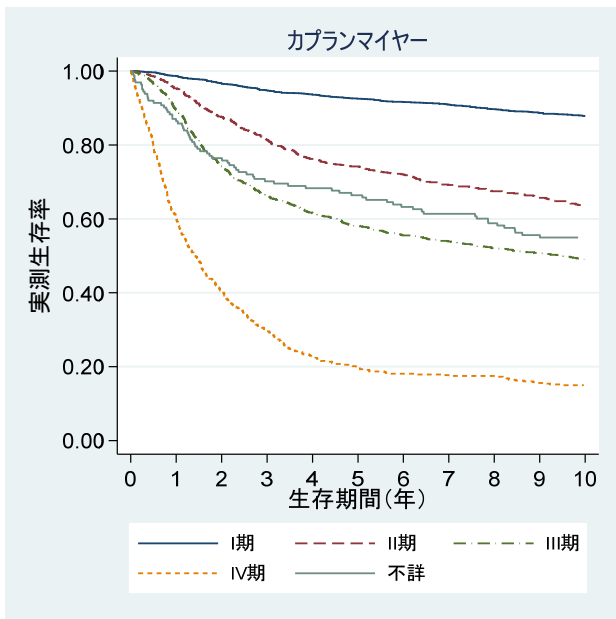
	対象数	(%)
全体	4,541	100.0
拠点病院等	4,507	99.3
都道府県推薦病院	34	0.7
年齢		
平均年齢 (SD)	54.3	16.3
0-14 歳	(1-3)	
15-39 歳	994	21.9
40 歳代	996	21.9
50 歳代	890	19.6
60 歳代	723	15.9
70 歳代	563	12.4
80 歳以上	374	8.2
UICC TNM 分類総合ステージ		
I 期	1,986	43.7
II 期	820	18.1
III 期	1,050	23.1
IV 期	521	11.5
不詳	164	3.6
観血的治療		
有	2,519	55.5
原発巣・治癒切除	2,165	47.7
原発巣・非治癒切除	191	4.2
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	163	3.6
無	2,022	44.5
発見経緯		
がん検診	699	15.4
健康診断・人間ドック	109	2.4
他疾患経過観察中	389	8.6
その他・不明	3,344	73.6

(3) 10 年生存率

10 年生存率を表 3-9-2 に示す。相対生存率は、70.7%、UICC TNM 分類総合ステージ I 期では 92.9%であった。

表 3-9-2 属性別 10 年相対生存率

	女性			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	65.0	70.7	69.2	72.2
拠点病院等	65.0	70.6	69.0	72.1
都道府県推薦病院	73.5	91.2	68.6	100.0
年齢				
15-39 歳	84.3	84.8	82.4	87.0
40 歳代	77.6	78.8	76.0	81.3
50 歳代	64.6	66.7	63.4	69.9
60 歳代	62.0	66.6	62.6	70.3
70 歳代	44.3	56.2	50.9	61.5
80 歳以上	17.0	43.3	33.7	53.9
UICC TNM 総合ステージ				
I 期	87.8	92.9	91.2	94.3
II 期	63.7	71.9	68.0	75.6
III 期	49.1	54.6	51.1	57.9
IV 期	14.8	16.9	13.5	20.6
不詳	55.1	62.8	53.6	71.2
観血的治療				
有	84.5	87.7	86.1	89.1
原発巣・治癒切除	86.4	89.5	87.9	90.9
原発巣・非治癒切除	68.5	72.0	64.4	78.5
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	78.0	81.9	74.2	87.8
無	40.4	48.4	45.8	51.0



10. 子宮内膜癌

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	生存状況把握割合 (%)	平均年齢
2008	214	4,278	1,015	96.2	59.4
I 期	207	2,676	340	95.7	58.8
II 期	139	382	90	97.4	60.2
III 期	175	780	283	96.7	59.4
IV 期	139	310	253	98.4	62.8

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、4,278 例で、10 年以内に亡くなっていたのが 1,015 例、打ち切りが 162 例であった。集計対象全体での生存状況把握割合は 96.2%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-10-1 に示す。年代を見ると、50 歳代が最も多く 34.6%であった。UICC TNM 分類総合ステージをみると、I 期が最も多く 62.6%を占めた。

表 3-10-1 対象者の属性

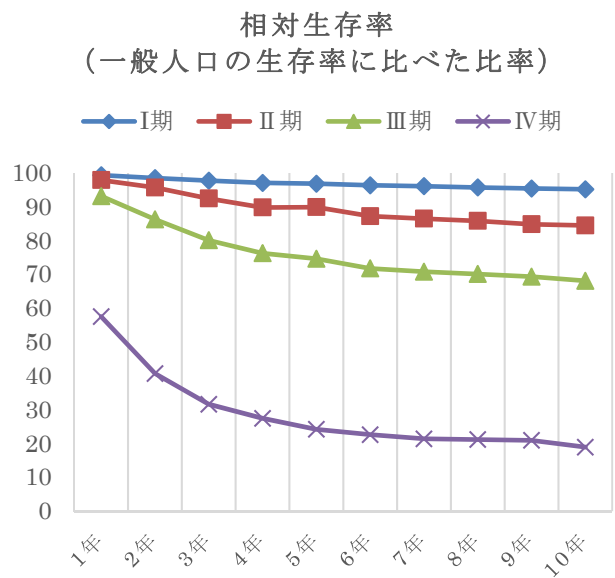
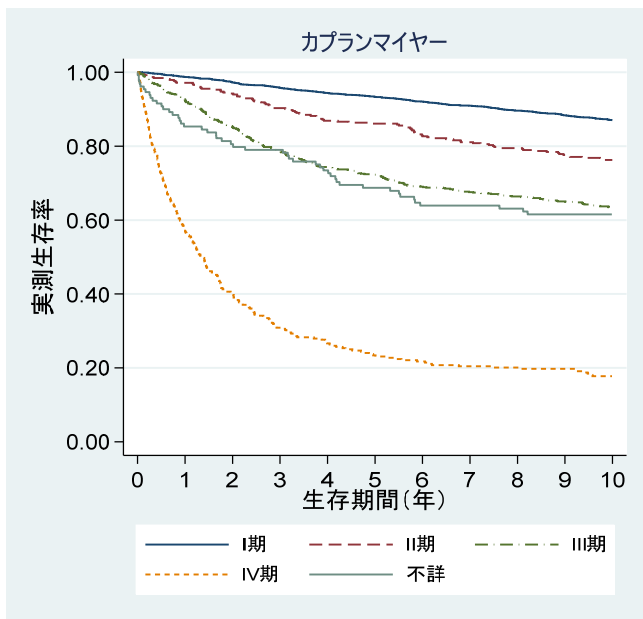
	対象数	(%)
全体	4,278	100.0
拠点病院等	4,242	99.2
都道府県推薦病院	36	0.8
年齢		
平均年齢 (SD)	59.4	12.0
15-39 歳	233	5.4
40 歳代	548	12.8
50 歳代	1,481	34.6
60 歳代	1,116	26.1
70 歳代	676	15.8
80 歳以上	224	5.2
UICC TNM 分類総合ステージ		
I 期	2,676	62.6
II 期	382	8.9
III 期	780	18.2
IV 期	310	7.2
不詳	130	3.0
観血的治療		
有	3,880	90.7
原発巣・治癒切除	3,422	80.0
原発巣・非治癒切除	213	5.0
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	245	5.7
無	398	9.3
発見経緯		
がん検診	412	9.6
健康診断・人間ドック	78	1.8
他疾患経過観察中	569	13.3
その他・不明	3,219	75.2

(3) 10 年生存率

10 年生存率を表 3-10-2 に示す。相対生存率は、83.0%であり、UICC TNM 分類総合ステージ I 期では 95.2%であった。

表 3-10-2 属性別 10 年相対生存率

	実測	女性		
		相対	95%信頼区間	
全体	76.0	83.0	81.5	84.4
拠点病院等	76.0	83.0	81.6	84.4
都道府県推薦病院	75.0	79.1	60.6	90.8
年齢				
15-39 歳	90.3	90.9	86.1	94.1
40 歳代	89.3	90.7	87.8	93.1
50 歳代	83.0	85.8	83.7	87.7
60 歳代	76.2	81.7	78.9	84.3
70 歳代	60.3	75.7	70.9	80.3
80 歳以上	27.1	62.3	49.0	76.3
UICC TNM 総合ステージ				
I 期	87.1	95.2	93.7	96.5
II 期	76.3	84.5	79.4	88.9
III 期	63.3	68.1	64.3	71.7
IV 期	17.8	18.9	14.6	23.7
不詳	61.5	68.4	58.3	77.1
観血的治療				
有	80.7	88.0	86.6	89.3
原発巣・治癒切除	83.1	90.6	89.2	91.9
原発巣・非治癒切除	47.4	51.6	44.1	58.7
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	76.5	82.5	76.2	87.7
無	29.4	33.2	28.2	38.4



11. 前立腺癌

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	生存状況把握割合 (%)	平均年齢
2008	234	16,482	5,666	96.8	71.2
I 期	140	533	149	97.6	71.7
II 期	231	10,313	2,640	96.7	70.6
III 期	219	2,565	807	96.8	71.1
IV 期	228	2,607	1,856	97.1	73.2

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、16,482 例で、10 年以内に亡くなっていたのが 5,666 例、打ち切りが 524 例であった。集計対象全体での生存状況把握割合は 96.8%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-11-1 に示す。年代を見ると、70 歳代が最も多く 46.5%を占めた。UICC TNM 分類総合ステージをみると、II 期が 62.6%を占めた。

表 3-11-1 対象者の属性

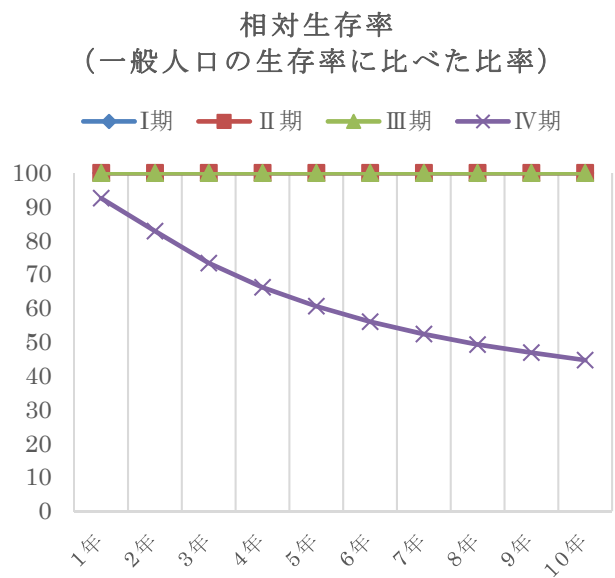
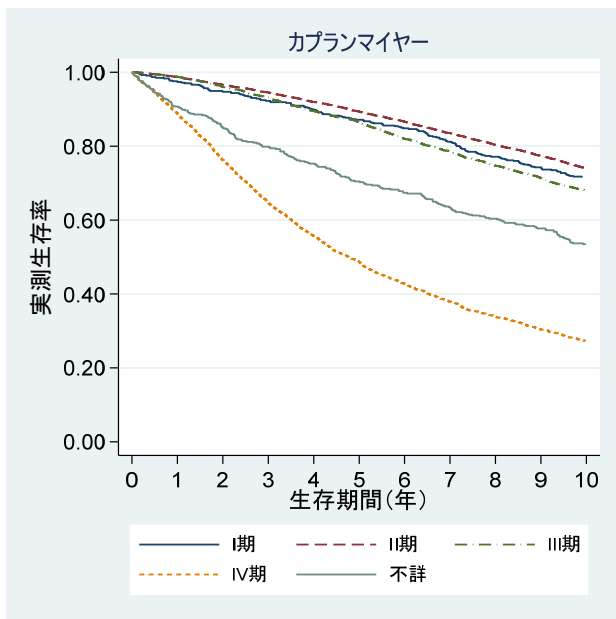
	全体	
	症例数	(%)
全体	16,482	100.0
拠点病院等	16,280	98.8
都道府県推薦病院	202	1.2
年齢		
平均年齢 (SD)	71.2	7.8
15-39 歳	(1-3)	
40 歳代	39	0.2
50 歳代	1,179	7.2
60 歳代	5,265	31.9
70 歳代	7,672	46.5
80 歳以上	2,325	14.1
UICC TNM 分類総合ステージ		
I 期	533	3.2
II 期	10,313	62.6
III 期	2,565	15.6
IV 期	2,607	15.8
不詳	464	2.8
観血的治療		
有	4,815	29.2
原発巣・治癒切除	3,993	24.2
原発巣・非治癒切除	480	2.9
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	342	2.1
無	11,667	70.8
発見経緯		
がん検診	2,981	18.1
健康診断・人間ドック	1,992	12.1
他疾患経過観察中	5,159	31.3
その他・不明	6,350	38.5

(3) 10 年生存率

10 年生存率を表 3-11-2 に示す。全体の生存率は、98.7%、I~III 期では、相対生存率は 100.0%であった。

表 3-11-2 属性別 10 年相対生存率

	男性			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	65.1	98.7	97.6	99.8
拠点病院等	65.2	98.8	97.7	99.9
都道府県推薦病院	55.9	90.0	78.5	100.0
年齢				
15-39 歳	-	-		
40 歳代	86.1	89.2	72.3	97.4
50 歳代	87.1	95.0	92.8	97.0
60 歳代	81.2	97.9	96.6	99.2
70 歳代	62.6	100.0	100.0	100.0
80 歳以上	24.2	91.3	84.7	98.2
UICC TNM 総合ステージ				
I 期	71.6	100.0	100.0	100.0
II 期	74.0	100.0	100.0	100.0
III 期	68.0	100.0	99.2	100.0
IV 期	27.3	44.7	41.9	47.5
不詳	53.3	89.5	81.7	97.0
観血的治療				
有	84.7	100.0	100.0	100.0
原発巣・治癒切除	86.0	100.0	100.0	100.0
原発巣・非治癒切除	78.0	100.0	98.2	100.0
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	79.6	100.0	100.0	100.0
無	56.9	93.4	91.9	94.9



12. 膀胱癌

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	生存状況把握割合 (%)	平均年齢
2008	230	5,091	2,857	96.5	72.0
I 期	226	2,819	1,294	96.6	71.6
II 期	213	942	554	95.8	72.6
III 期	197	561	394	96.6	73.3
IV 期	193	549	492	97.6	71.7

(1) 生存状況把握割合

集計対象 5,091 例のうち、10 年以内に死亡していた者は 2,857 例、打ち切りが 177 例で、全体として生存状況把握割合は 96.5%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-12-1 に示す。性別をみると、男性や 77.9%を占めた。年齢をみると、70 歳代が最も多く 35.9%、次いで 80 歳以上が 26.6%であった。UICC TNM 分類総合ステージをみると、I 期が最も多く 55.4%を占めた。観血的治療は 87.7%で実施されていた。

表 3-12-1 直腸 対象者の属性

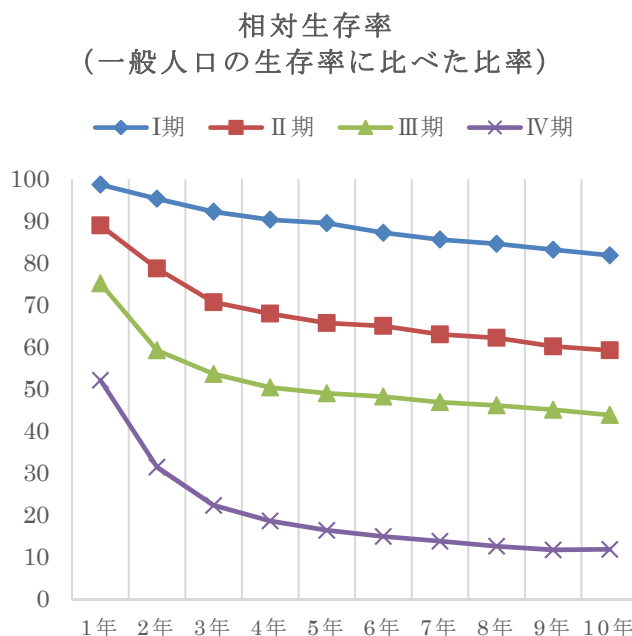
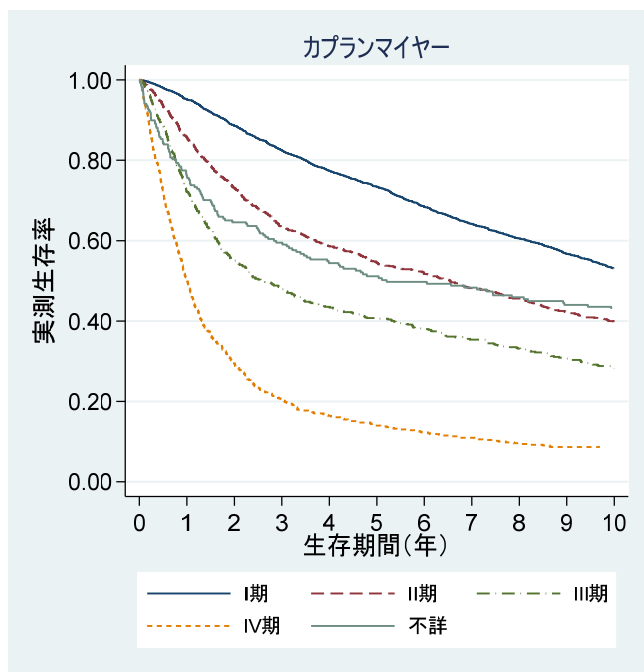
	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	3,968	100.0	1,123	100.0	5,091	100.0
拠点病院等	3,923	98.9	1,107	98.6	5,030	98.8
都道府県推薦病院	45	1.1	16	1.4	61	1.2
年齢						
平均年齢 (SD)	71.3	10.6	74.2	11.2	72.0	10.8
15-39 歳	24	0.6	10	0.9	34	0.7
40 歳代	93	2.3	19	1.7	112	2.2
50 歳代	438	11.0	93	8.3	531	10.4
60 歳代	1,025	25.8	206	18.3	1,231	24.2
70 歳代	1,435	36.2	393	35.0	1,828	35.9
80 歳以上	953	24.0	402	35.8	1,355	26.6
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	2,274	57.3	545	48.5	2,819	55.4
II 期	716	18.0	226	20.1	942	18.5
III 期	416	10.5	145	12.9	561	11.0
IV 期	398	10.0	151	13.4	549	10.8
不詳	164	4.1	56	5.0	220	4.3
観血的治療						
有	3,516	88.6	948	84.4	4,464	87.7
原発巣・治癒切除	2,648	66.7	676	60.2	3,324	65.3
原発巣・非治癒切除	496	12.5	178	15.9	674	13.2
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	372	9.4	94	8.4	466	9.2
無	452	11.4	175	15.6	627	12.3
発見経緯						
がん検診	53	1.3	16	1.4	69	1.4
健康診断・人間ドック	118	3.0	20	1.8	138	2.7
他疾患経過観察中	977	24.6	244	21.7	1,221	24.0
その他・不明	2,820	71.1	843	75.1	3,663	72.0

(3)10年生存率

10年生存率を表3-12-2に示す。相対生存率は、全体で65.1%であった。70歳以上では、実測生存率と相対生存率の乖離が大きく、他疾患での亡くられる場合も多いと考えられる。UICC TNM分類総合ステージ別にみると、I期が81.9%、II期が59.3%であった。観血的治療有の者の相対生存率は70.7%であった。

表3-12-2 属性別10年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	43.2	67.5	65.1	70.0	40.9	56.8	52.7	60.8	42.7	65.1	63.0	67.2
拠点病院等	43.2	67.5	65.0	69.9	40.9	56.8	52.7	60.9	42.7	65.1	63.0	67.2
都道府県推薦病院	47.7	69.8	47.6	89.9	-	-	-	-	45.9	66.1	47.4	83.4
年齢												
15-39歳	-	-	-	-	-	-	-	-	75.5	76.3	57.5	87.9
40歳代	79.4	81.9	71.8	89.0	-	-	-	-	78.4	80.7	71.5	87.4
50歳代	72.1	78.3	73.4	82.6	75.2	77.9	67.4	85.7	72.7	78.2	73.9	82.1
60歳代	63.1	75.5	71.8	79.0	61.8	66.8	59.2	73.6	62.9	74.0	70.7	77.1
70歳代	37.1	62.1	57.9	66.3	45.2	58.7	52.2	65.1	38.8	61.5	57.9	65.0
80歳以上	13.1	54.0	45.3	63.4	14.8	38.5	29.7	48.4	13.6	49.0	42.4	55.9
UICC TNM 総合ステージ												
I期	52.5	83.12	79.8	86.37	55.7	76.88	70.88	82.57	53.1	81.9	79.0	84.7
II期	39.1	59.2	53.7	64.67	42.1	59.45	50.14	68.54	39.8	59.3	54.5	64.0
III期	29.5	46.86	39.9	54	24.8	35.47	25.7	46.09	28.3	43.9	38.1	49.9
IV期	9.0	12.92	9.2	17.38	7.1	9.29	4.77	15.84	8.5	11.9	8.9	15.5
不詳	50.1	72.09	60.6	82.83	22.9	31.45	17.71	47.55	43.1	61.6	52.1	70.9
観血的治療												
有	46.8	72.6	70.0	75.2	46.2	63.8	59.3	68.2	46.7	70.7	68.4	72.9
原発巣・治癒切除	50.7	78.4	75.4	81.4	52.3	71.7	66.3	76.8	51.1	77.0	74.4	79.6
原発巣・非治癒切除	25.9	41.3	35.2	47.6	23.5	33.2	24.7	42.4	25.3	39.1	34.0	44.3
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	46.7	71.8	63.8	79.5	45.6	65.0	50.2	79.0	46.5	70.4	63.4	77.2
無	14.7	26.0	20.3	32.2	11.5	16.9	10.5	24.9	13.8	23.4	18.9	28.4



付表一覽

1.集計対象施設一覽

付表1 集計対象施設について

都道府県	施設名称
北海道	北海道がんセンター
北海道	王子総合病院
北海道	JA北海道厚生連帯広厚生病院
北海道	北見赤十字病院
青森	八戸市立市民病院
岩手	岩手県立中央病院
岩手	岩手県立二戸病院
岩手	岩手医科大学附属病院
岩手	岩手県立宮古病院
岩手	岩手県立釜石病院
宮城	東北大学病院
宮城	宮城県立がんセンター
宮城	石巻赤十字病院
宮城	大崎市民病院
宮城	独立行政法人労働者健康安全機構 東北労災病院
秋田	秋田大学医学部附属病院
秋田	JA秋田厚生連 由利組合総合病院
秋田	秋田県農業協同組合連合会 大曲厚生医療センター
秋田	秋田県厚生農業協同組合連合会 能代厚生医療センター
秋田	秋田赤十字病院
秋田	秋田県厚生農業協同組合連合会 秋田厚生医療センター
山形	山形県立中央病院
山形	山形大学医学部附属病院
山形	山形市立病院済生館
山形	置賜広域病院企業団 公立置賜総合病院
福島	労働者健康安全機構 福島労災病院
福島	福島県立医科大学附属病院
福島	太田西ノ内病院
福島	総合南東北病院
福島	会津中央病院
茨城	茨城県立中央病院
茨城	筑波メディカルセンター病院・茨城県地域がんセンター
茨城	東京医科大学茨城医療センター
茨城	友愛記念病院
茨城	国立大学法人 筑波大学附属病院
茨城	株式会社 日立製作所 ひたちなか総合病院
栃木	地方独立行政法人栃木県立がんセンター
栃木	自治医科大学附属病院
栃木	栃木県済生会宇都宮病院
栃木	獨協医科大学病院
栃木	那須赤十字病院
群馬	群馬県立がんセンター
群馬	独立行政法人国立病院機構 渋川医療センター
群馬	独立行政法人国立病院機構 高崎総合医療センター
群馬	前橋赤十字病院
埼玉	さいたま赤十字病院
埼玉	埼玉県立がんセンター
埼玉	春日部市立医療センター
埼玉	埼玉医科大学国際医療センター
埼玉	社会福祉法人恩賜財団済生会支部埼玉県済生会川口総合病院
千葉	国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院
千葉	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
千葉	国保直営総合病院 君津中央病院
千葉	千葉県がんセンター
千葉	独立行政法人労働者健康安全機構千葉労災病院

都道府県	施設名称
千葉	船橋市立医療センター
千葉	千葉大学医学部附属病院
千葉	独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター
千葉	東京歯科大学市川総合病院
千葉	順天堂大学医学部附属浦安病院
千葉	東京慈恵会医科大学附属柏病院
千葉	日本医科大学千葉北総病院
東京	国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院
東京	東京都立駒込病院
東京	N T T 東日本関東病院
東京	日本大学医学部附属板橋病院
東京	聖路加国際病院
東京	帝京大学医学部附属病院
東京	杏林大学医学部附属病院
神奈川	神奈川県立がんセンター
神奈川	国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院
神奈川	横浜市立市民病院
神奈川	小田原市立病院
神奈川	川崎市立井田病院
神奈川	聖マリアンナ医科大学病院
神奈川	北里大学病院
新潟	新潟県立がんセンター新潟病院
新潟	新潟県立中央病院
新潟	長岡赤十字病院
新潟	新潟県厚生農業協同組合連合会 長岡中央総合病院
新潟	県立新発田病院
富山	富山県立中央病院
富山	黒部市民病院
富山	富山大学附属病院
富山	厚生連高岡病院
石川	国立大学法人金沢大学附属病院
石川	独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター
石川	石川県立中央病院
石川	金沢医科大学病院
石川	国民健康保険 小松市民病院
福井	福井県立病院
福井	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 福井県済生会病院
福井	福井赤十字病院
福井	福井大学医学部附属病院
山梨	山梨県立中央病院
山梨	国立大学法人 山梨大学医学部附属病院
長野	長野県厚生農業協同組合連合会 佐久総合病院
長野	国立大学法人 信州大学医学部附属病院
長野	諏訪赤十字病院
長野	飯田市立病院
長野	長野市民病院
長野	長野赤十字病院
長野	社会医療法人財団慈泉会 相澤病院
長野	伊那中央病院
岐阜	高山赤十字病院
岐阜	岐阜県総合医療センター
岐阜	岐阜県立多治見病院
岐阜	大垣市民病院
岐阜	社会医療法人厚生会 木沢記念病院
静岡	静岡県立静岡がんセンター

都道府県	施設名称
静岡	静岡県立総合病院
静岡	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院
静岡	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷浜松病院
静岡	順天堂大学医学部附属静岡病院
静岡	静岡市立静岡病院
静岡	藤枝市立総合病院
静岡	浜松医科大学医学部附属病院
静岡	浜松医療センター
愛知	愛知県がんセンター
愛知	愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院
愛知	海南病院
愛知	国立病院機構 名古屋医療センター
愛知	小牧市民病院
愛知	豊橋市民病院
愛知	一宮市立市民病院
愛知	公立陶生病院
愛知	愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院
愛知	名古屋第一赤十字病院
滋賀	市立長浜病院
京都	京都市立病院
京都	市立福知山市民病院
大阪	大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター
大阪	市立岸和田市民病院
大阪	市立豊中病院
大阪	大阪国際がんセンター
大阪	地方独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター
大阪	大坂赤十字病院
大阪	独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター
大阪	独立行政法人労働者健康安全機構大阪労災病院
大阪	大阪医科大学附属病院
大阪	大阪市立大学医学部附属病院
大阪	独立行政法人国立病院機構大阪医療センター
兵庫	兵庫県立がんセンター
兵庫	神戸大学医学部附属病院
兵庫	神戸市立医療センター中央市民病院
兵庫	公立学校共済組合 近畿中央病院
兵庫	姫路赤十字病院
兵庫	赤穂市民病院
兵庫	公立豊岡病院組合立豊岡病院
兵庫	兵庫県立淡路医療センター
兵庫	兵庫県立丹波医療センター
奈良	奈良県立医科大学附属病院
奈良	奈良県総合医療センター
奈良	市立奈良病院
和歌山	日本赤十字社和歌山医療センター
鳥取	鳥取県立厚生病院
鳥取	独立行政法人国立病院機構 米子医療センター
鳥取	鳥取県立中央病院
島根	松江市立病院
島根	島根大学医学部附属病院
島根	島根県立中央病院
島根	独立行政法人国立病院機構 浜田医療センター
岡山	岡山済生会総合病院
岡山	公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院
岡山	津山中央病院

都道府県	施設名称
岡山	岡山医療センター
岡山	川崎医科大学附属病院
広島	県立広島病院
広島	地方独立行政法人広島市立病院機構 広島市立広島市民病院
広島	広島赤十字・原爆病院
広島	独立行政法人国立病院機構 呉医療センター
広島	東広島医療センター
広島	広島県厚生農業協同組合連合会 尾道総合病院
広島	福山市民病院
山口	国立病院機構 岩国医療センター
山口	山口県厚生農業協同組合連合会周東総合病院
山口	独立行政法人地域医療機能推進機構徳山中央病院
徳島	徳島県立中央病院
徳島	徳島大学病院
徳島	徳島赤十字病院
香川	香川県立中央病院
香川	独立行政法人労働者健康安全機構香川労災病院
香川	三豊総合病院
香川	高松赤十字病院
香川	国立大学法人 香川大学医学部附属病院
愛媛	市立宇和島病院
愛媛	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター
愛媛	住友別子病院
愛媛	愛媛大学医学部附属病院
愛媛	愛媛県立中央病院
愛媛	松山赤十字病院
愛媛	社会福祉法人恩賜財団 済生会今治病院
高知	国立大学法人 高知大学医学部附属病院
高知	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター
福岡	久留米大学病院
福岡	公立八女総合病院
福岡	地方独立行政法人大牟田市立病院
福岡	社会保険田川病院
福岡	飯塚病院
福岡	独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター
福岡	北九州市立医療センター
福岡	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター
福岡	国立大学法人 九州大学病院
福岡	福岡県済生会福岡総合病院
福岡	福岡大学病院
福岡	聖マリア病院
福岡	独立行政法人地域医療機能推進機構 九州病院
佐賀	地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館
佐賀	国立大学法人佐賀大学医学部附属病院
佐賀	唐津赤十字病院
佐賀	独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター
長崎	日本赤十字社 長崎原爆病院
長崎	地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター
長崎	国立大学法人 長崎大学病院
熊本	熊本大学病院
熊本	独立行政法人労働者健康安全機構 熊本労災病院
熊本	人吉医療センター
熊本	熊本赤十字病院
熊本	国立病院機構 熊本医療センター
熊本	荒尾市民病院

都道府県	施設名称
大分	大分県立病院
大分	大分赤十字病院
大分	大分大学医学部附属病院
大分	大分県済生会日田病院
宮崎	国立病院機構 都城医療センター
宮崎	国立大学法人宮崎大学医学部附属病院
鹿児島	鹿児島大学病院
鹿児島	国立病院機構 鹿児島医療センター
鹿児島	鹿児島県立大島病院
鹿児島	独立行政法人国立病院機構 南九州病院
鹿児島	県民健康プラザ鹿屋医療センター
沖縄	地方独立行政法人那覇市立病院
沖縄	沖縄県立中部病院
沖縄	国立大学法人 琉球大学病院

都道府県	施設名称
秋田	中通総合病院
静岡	沼津市立病院
静岡	焼津市立総合病院
大阪	社会医療法人生長会 ベルランド総合病院
島根	松江医療センター
熊本	天草地域医療センター

がん診療連携拠点病院等院内がん登録
2008年10年生存率集計 報告書

2021年4月 第1刷発行
(非売品)

編 集 東尚弘 奥山絢子 馬越理子

発 行 国立研究開発法人 国立がん研究センター
がん対策情報センター がん登録センター
院内がん登録分析室
〒104-0045 東京都中央区築地五丁目1番1号
電話 03-3542-2511